



思いを新たに

創業者・浅野総一郎は

“人間の目的は「死んだ後まで社会を益すること」を志すにある”
という言葉を残しました。

私たちは創業の志を忘れることなく、
未来に向かって歩んでまいります。



波となぎさ

Wave & Beach



表紙写真／

「港を守る」米倉辰雄（「豊かなウォーターフロントフォトコンテスト 2016」防災部門優秀賞

C O N T E N T S

特集1 JAPAN BEACH GAMES® Festival2017

- 02 ビーチゲームズ日本招致プロジェクト
JAPAN BEACH GAMES® Festival2017
～日本にビーチスポーツの国際祭典を～

NPO法人日本ビーチ文化振興協会

特集2 大分港海岸直轄海岸保全施設整備事業について

- 06 大分港海岸直轄海岸保全施設整備事業について

九州地方整備局 別府港湾・空港整備事務所 沿岸防災対策官 荻 定治

TOPICS

- 10 (一社)防災ガールによるソフト面からの津波防災対策について
～オレンジフラッグを津波防災の象徴に～

一般社団法人防災ガール 代表理事 田中 美咲

- 14 地域における海岸美化への取組について

蒲郡信用金庫 総務部副部長 清水 宏志

全国海岸リレー紹介

- 18 北海道／東北／関東／北陸／中部／近畿／中国／四国／九州／沖縄

データで見る海岸・防災

- 24 東日本大震災で被災した港湾・海岸の復旧状況
26 各地域における東日本大震災以降の想定津波の検討状況
28 「港湾の事業継続計画」における全国の検討状況一覧
30 港湾海岸における水門・陸閘等の状況

連載コラム

- 32 なぎさグルメ紀行 魚津市

産業建設部 農林水産課 課長 山岡 晃

- 36 私と海岸 北上する動植物たち

愛知県約リインストラクター連絡機構 顧問 大田 豊明

ビーチゲームズ日本招致プロジェクト JAPAN BEACH GAMES® Festival2017 ～日本にビーチスポーツの国際祭典を～

NPO法人日本ビーチ文化振興協会

はじめに

5月3日(木祝)～6日(日)、ゴールデンウィークのお台場海浜公園おだいばビーチ(東京都港区)にて、ビーチゲームズ日本招致プロジェクト『JAPAN BEACH GAMES® Festival2017』(主催:JAPAN BEACH GAMES Festival2017 実行委員会)が開催されました。

海や砂浜を舞台にしたスポーツの世界大会であるワールドビーチゲームズ(主催:国内オリンピック委員会連合)が2019年にアメリカ・カルフォルニア州サンティエゴで開催されることを受けて、世界規模の大会を日本に誘致し、海辺から日本を元気にし海辺の価

値を向上させること、海辺から世界に向けて日本をPRすることに加えて、各競技の普及と強化を目的として、2014年にビーチゲームズ日本招致プロジェクトが発足いたしました。

『JAPAN BEACH GAMES®』は、各ビーチスポーツ競技団体が公式戦を一同に行うビーチスポーツの国内最高峰の祭典です。ワールドビーチゲームズ及びアジアビーチゲームズ(主催:アジアオリンピック評議会)を日本に招致することを目的として全国で当大会をPRするために開催されるものであり、今回が初めての開催となりました。

『JAPAN BEACH GAMES® Festival2017』実行委員会には、各競技団体の代表者や上智大学教授

の師岡文男氏(国際ワールドゲームズ協会理事)が加わり、当協会が統括して運営に携わりました。

開会式では、ビーチゲームズ日本招致プロジェクトのナビゲーターである元ビーチバレーボール選手の浅尾美和さん、当協会理事長・元ビーチバレーボール日本代表・北京、ロンドン五輪出場の朝日健太郎が、大会への意気込みと開会宣言を行い、当大会の意義を説明しました。開催期間中は晴天に恵まれ、気温も高く、まさにビーチスポーツに適した気候となり、会場はビーチスポーツの公式戦を観戦に来られた方や、水辺に遊びに来られた親子連れ、観光客など5日間を通じて約6万人の人で賑わいました。



『JAPAN BEACH GAMES® Festival2017』開会式集合写真

『JAPAN BEACH GAMES® Festival 2017』について

『JAPAN BEACH GAMES® Festival 2017』ではビーチバレーボール、ビーチテニス、フレスコボールの3競技が公式戦を、ビーチドッジボール、ビーチフラッグス(ライフセービング)の2競技が公認戦をそれぞれ行い、アジアビーチゲームズと同じように観戦無料というスタイルで行いました。

公式戦は、勝利すると各競技団体においてグレードの高い国内および世界大会へエントリーができるポイントが加算されることから、選手同士は真剣勝負で戦います。それゆえ質の高いプレーが飛び出し、観客をより魅了することが出来ます。特に、ビーチバレーボールはビーチスポーツのなかでオリンピック正式種目ということもあり、各プレーのレベルが高く、決勝戦においては砂の上に建てられた特設観客席は満員となりました。

また、子どもたちに大人気のビーチドッジボールには日本代表のトップアスリートが出場したり、プロのライフセー



ビーサン跳ばし選手権『ビーチライフカップおだいば大会』

バーが砂の上の格闘技と言われるビーチフラッグス大会で白熱した試合を繰り広げるなど、公認戦ながら非常にハイクオリティーな熱戦が繰り広げられ、あまり観戦機会のない競技を観戦した観客からは大きな声援が送られていました。

大会の中日である5月5日はこどもの日にちなんでファミリー層を対象に、各競技団体がビーチスポーツの体験会

を行いました。

ビーチバレーボールでは、浅尾美和さん、朝日健太郎が講師となってスクールを行い、初心者向けに楽しさを伝えました。

円盤のフライングディスクを投げてストライクアウトを行ったビーチフライングディスクや、2016年9月に開催されたアジアビーチゲームズベトナムダナン2016でロシア発祥の格闘技であるビーチサンボにて銀メダルを獲得した村瀬春香選手が参加したエキシビジョンマッチなど会場を大いに賑わせていました。

全国のビーチで大人気のビーサン跳ばし(主幹:ビーサン協会)が『JAPAN BEACH GAMES® Festival 2017』でついに初の公式全国大会『ビーサン跳ばし選手権ビーチライフカップおだいば大会』を開催しました。ビーサン跳ばしは老若男女が手軽に参加できることから、全国どこのビーチで行っても大人気の種目となっています。エンターテインメントな一面を持ちつつも、競技性を兼ね備えており、



ビーチバレーボール



海辺図書館

今後のビーチスポーツに新たな展開を与えるものと考えています。2017年はおだいばビーチ、須磨海岸、酒田大浜海岸、柏崎東の輪海岸及び阿字ヶ浦海岸にて計5回の公式戦を行い、各大会上位3位までをファイナルへ招待する予定となっています。

『JAPAN BEACH GAMES® Festival2017』では、ビーチスポーツだけでなく来場者にビーチ空間を最大限満喫してもらうため様々なコーナーを設けました。

中でも、日本大学理工学部海洋建築学科により設置された海辺図書館は、竹のパーゴラで日陰を作り、その下で本を読んでくつろげるという絶好の癒しの空間となっており、期間中は気温が高かったという事もあり、大変な賑わいを見せていました。

一本のライン(幅5センチほどの平べったいロープ)の上でバランスを取りながらパフォーマンスを行うスラックラインでは世界チャンピオンが登場し会場

を盛り上げたり、ステージでは子どもたちが可愛い衣装を着て日々の練習の成果を披露したキッズチアダンスやビーチサン跳ばしのテーマソングを歌うシンガーソングライターによる生ライブなど、ビーチに癒しと楽しみを提供する様々なイベントが開催され、来場者の方々が開放されたビーチ空間にて思い思いの時間を過ごす様子が見られました。

小名浜チャリティービーチスポーツツアーinお台場

『JAPAN BEACH GAMES® Festival2017』では、5月5日こどもの日に、福島県小名浜市の子どもたちをおだいばビーチへ招待しました。小名浜チャリティービーチスポーツツアーinお台場は、東日本大震災の被災地である福島県小名浜市の子どもたちに、はだして思いきり遊べるビーチを提供しビーチの良さを認識してもらい、故郷である小名浜ビーチへの郷土愛を育んでもらうことを目的とするものであり、2016年より行っています。

当日子どもたちは、ビーチバレーボールスクールやビーチサン跳ばし選手権などに参加し、一日中ビーチをはだして駆け巡っていました。



スラックライン



小名浜チャリティービーチスポーツツアー inお台場

今後目指すべき姿

ビーチゲームズ日本招致プロジェクトでは全4回の勉強会が行われ、最終回では、①JAPAN BEACH GAMES®実行委員会の創設、②競

技団体の基盤の強化、③ジャパンビーチゲームズ開催という3つの提言が示されています。

この3つの提言を踏まえ、今回、初めて『JAPAN BEACH GAMES® Festival2017』が開催されました。今回の大会を契機に、各競技団体が基

盤・組織強化に力を入れ、加えて競技の普及、技術の向上を進め、その積み重ねが、結果としてビーチゲームズ日本招致につながり、海辺の価値感の向上になるものと考えています。今後は、当イベントに参加できなかったビーチスポーツ競技団体や、ビーチサン跳ばしやe-sport(電子機器を使って行う娯楽、競技、スポーツなどをe-sportと言います)のような新しい競技の団体も交えながら、タッグを組める組織を創設し、各競技団体がその組織に加盟し、JAPAN BEACH GAMES®実行委員会の法人化を見据え、ビーチゲームズ日本招致プロジェクトを進めていきます。

今年も日本全国のビーチをはだして駆け巡り、より一層海辺の文化の振興に汗を流します。

コラム 7月31日を『ビーチの日』と制定

今年はNPO法人日本ビーチ文化振興協会が設立され15年目の節目となりました。関係各所の皆様に感謝しつつ今後も精進して参ります。

NPO法人日本ビーチ文化振興協会は設立15周年記念として、海の日と山の日の中間の7月31日を『ビーチの日』と制定し、一般社団法人日本記念日協会の認定を受けたところです。2017年7月31日(月)には、おだいばビーチにて『ビーチの日』設立記念イベントを行う予定です。今後は『ビーチの日』というシンボルを通じて、全国の人に海の恩恵、海辺の価値感を伝え、ビーチ文化の創造を育んでゆきたいと考えています。

2017年 NPO法人日本ビーチ文化振興協会 活動予定

5/3~5/5	JAPAN BEACH GAMES Festival2017
5/28	須磨ビーチフェスタ2017
6/17~6/18	京丹後サンセットビーチラン・京丹後ビーチスポーツフェスティバル
7/30	ビーチライフin新潟
7/31	『Beach Day in ODAIBA2017』
9/3	酒田ビックビーチフェスタ2017
9/16	ビーチライフin柏崎
10/1	ビーチライフふれあいフェスティバルin阿字ヶ浦
3/19~12/10	おだいばビーチパレー 全38回
5/5~10/1	ビーチサン跳ばし選手権『ビーチライフカップ』 全5回
主な刊行物	はだし文化新聞(4/10 第7号発行) ビーチスポーツガイドブック

大分港海岸直轄海岸保全施設整備事業について

九州地方整備局 別府港湾・空港整備事務所
沿岸防災対策官 荻 定治



1.はじめに

直轄海岸保全施設整備事業として新規事業化された大分港海岸は、大分県の中央に位置し、西から「住吉地区」「津留地区」「乙津地区」及び「鶴崎地区」の4地区から成り、その背後には、県都大分市の市街地と臨海工業地帯が広がっている。

市街地には、住宅地が密集し、学校及び地域中枢機能施設（行政施設、警察・消防、病院等）があり、大分市の人口の1/5となる9万5千人が居住している（図1）。

臨海工業地帯は、大分県が高度成長期に別府湾に短期間で整備した埋立地であり、鉄鋼業や石油化学工業といった、基幹産業を中核と

する事業所で形成された大分コンビナートと中小企業団地から構成され、全体で約400社が立地しており、県内はもとより、我が国の経済・産業を支えている。

この様な中、南海トラフではM8～9クラスの地震が今後30年以内に70%程度の確率で発生するとされており、地震が発生した場合、大分市臨海部では、津波による被害が想定されている。

また、国内では近年異常気象や台風の大型化等に起因した高潮や高波による被害が頻発しており、ここ大分港海岸でも幾度となく浸水被害が確認されている。大分港海岸は台風常襲地帯に位置し、今後さらなる高潮・高波に伴う被災のリスクが増加する可能性が高い（図2）。

こうした地震・津波や台風等による高潮・高波の切迫性の高まり、さらに



図-2 台風常襲地帯



図-1 大分港海岸事業個所と背後状況

は2011年に甚大な被害をもたらした東日本大震災からも、災害に備えた防護機能強化の緊急性が一段と高まっている。

大分港海岸直轄保全施設整備事業は、整備延長約21km、総事業費300億円、整備期間19年の計画で直轄事業として事業化された。本稿では大分港海岸の状況と取り組みについて紹介する。

2. 地震・津波災害の危険性

大分港海岸の位置する大分市は、南海トラフ地震防災対策推進地域、南海トラフ地震津波避難対策特



南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域
(出典:内閣府資料を基に国土交通省港湾局作成)

図-3 南海トラフ地震津波対策強化地域

別強化地域に指定(図3)。

大分コンビナートは、我が国のコンビナートの中で、南海トラフ巨大地震による震度と津波高が最も大きく、その影響を最も受けやすいコンビナートである。

また、大分港海岸の既設護岸では、南海トラフ巨大地震で大規模な液状化が発生し、護岸の沈下や法線のズレ(目地開き)等により、市街地やコンビナートの大規模な浸水被害の発生が想定されている(図4)。

浸水被害軽減のためにも護岸の嵩上げ、耐震性を早急に確保するための耐震対策及び大規模津波に対する減災機能を発揮する護岸の粘り強い化が急務である。

なお、平成28年4月に発生した熊本地震では、前震M6.5、本震M7.3と震度7を記録した地震が2度も発生、地震の連鎖が発生するという異例の事態が生じた。

大分県内でも熊本地震に誘発されたとみられる別府・万年山断層帯(別府湾-日出生断層帯)によるM6.0前後の地震で最大震度6弱を

記録したが、大分港海岸が位置する大分市の震度は、震度5弱、大分港海岸近傍で震度4であり、幸いにも大きな被災には至っていない。

3. 高潮・高波災害の危険性

臨海部の埋立地は、大分県新産業都市建設局が造成(昭和34年~49年)したもので、築造から約50年が経過し、上部工の大規模な亀裂や水叩きの陥没等の老朽化が顕著(写真1)であるとともに、元々天端高が低いことに加え、経年沈下も相まって、背後地に求められる防護水準(50年確率波に対し許容越波量 $0.01\text{m}^3/\text{s}\cdot\text{m}$)に対し、天端高が大きく不足している状況である。

一方、大分港で最大級の高潮となったのは、埋立造成前に発生した昭和29年のジュン台風時(大分県接近時の気圧は965hPa)と推定され、現在の地形及び護岸の状態で、満潮時にジュン台風級(偏差1.3m)が来襲すれば、埋立地と背後市街地において甚大な浸水被害が



図-4 津波浸水シミュレーション結果



護岸のひび割れ状況



H5 13号

越波に伴う流木打ち上げ状況



護岸のひび割れ状況



H26 19号

越波状況



水叩きの陥没状況



H26 19号

背後の浸水状況

写真1 護岸の老朽化

写真2 高潮被害

想定されている(図5)。

平成26年の台風19号では、高潮偏差、沖波波高が設計想定のおお割程度のお規模にも係わらず、天端高の不足から住吉・津留地区を中心に越波が発生し、背後地の一部に浸水が発生している(写真2)。

また、平成16年の台風16号(966hPa)では、ジュン台風級に迫る高潮偏差(偏差1.1m)を記録したが、干潮時であったため大きな高潮被害は無かったものの、満潮時と重なってれば、ジュン台風と同規模の浸水が発生したものと想定される。

近年、ジュン台風級の勢力の強い台風が多頻度で来襲しており、大分港海岸において、大規模な浸水がいつ起きてもおかしくない状況であることから、本海岸における海岸保全施設の整備が急務である。

4.これまでの取り組み

海岸管理者である大分県では、東日本大震災を教訓に、地震・津波に対する意識の高まりから、想定外

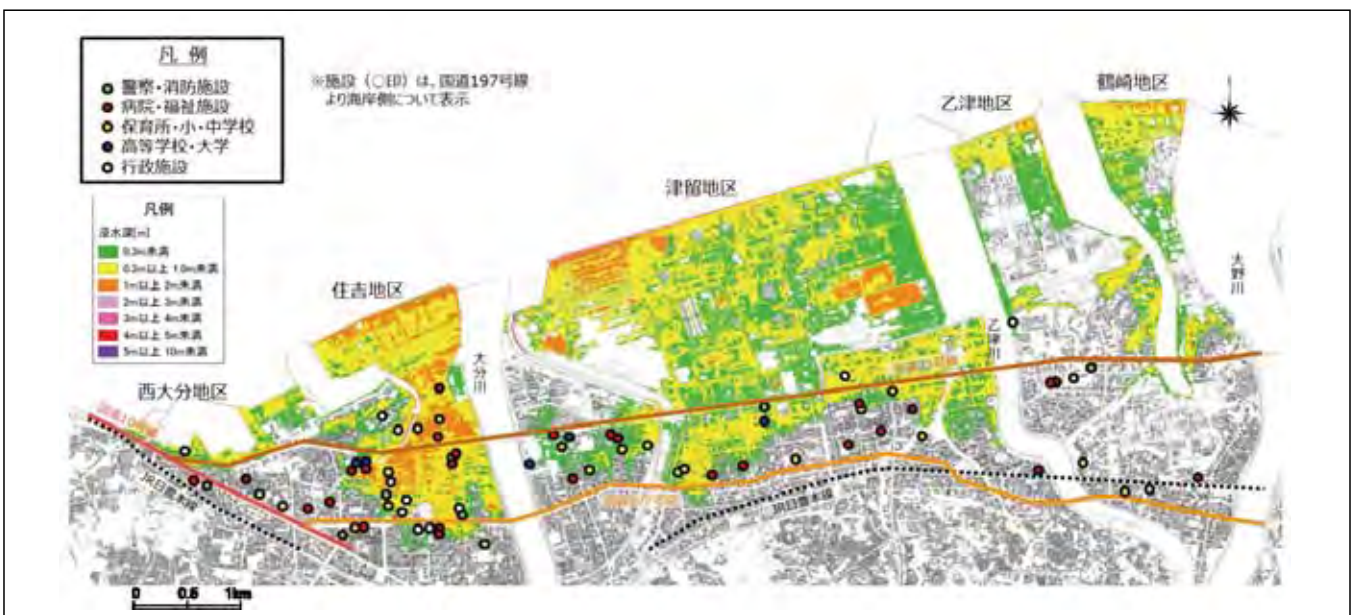


図-5 高潮浸水シミュレーション結果

も考慮した今後の災害に備えるため、平成26年1月に有識者と企業を構成員とした「大分臨海部の地震・津波対策検討会」を設置し、「大規模自然災害に対して、地域社会の安全・安心の確保はもとより、我が国の産業競争力と経済発展に資するために、『国土強靱化』の理念にもかなう大分臨海部の強靱化が必要」とする提言をとりまとめ、同4月に大分県知事に手交している。

また、大分県が策定した「豊前豊後沿岸海岸保全基本計画(平成27年2月改訂)」では、海岸の保全に関する防護の目標を設定しており、「別府湾ゾーン」に位置する大分港海岸は、「主に高潮対策による海岸保全施設の整備が必要」と位置づけられ、かつ津波被害が懸念される地域でもあるため、津波浸水対策としても海岸保全施設の整備が位置づけられている。

一方、国では、平成27年度から28年度にかけ、現地調査の他、防護ラインの位置や防護形式等について、これまで海岸管理者である大分県が検討、設定した計画を踏まえ、事業の必要性、緊急性、技術的課題及び対応方策について、検討を重ねてきている。

防護形式の検討では、大分港海岸の事業費及び事業期間を縮減することを目的に、事業効果の早期発現に資する技術的な検討を行うため、技術の専門家を構成員とした



写真3 護岸整備技術検討部会

「大分港海岸護岸整備技術検討部会」を設置し、技術的助言を得ながら整備断面等の検討を行ってきている(写真3)。

なお、整備施設の要求性能については、「高潮・高波及び設計津波による浸水被害防止のための海岸保全施設の整備、最大クラスの津波の越流に対して避難時間確保や背後地の被害軽減を図るための海岸保全施設の粘り強い化」と位置付け、その対策について検討を行ってきたところである。

5. 設計・施工検討について

整備方法を検討するに当たっては、大分港海岸の現場条件として以下の特徴があり、これを踏まえた検討が必要とされている。

<地理的困難性>

一級河川が複数流入する沖積低地に位置し、液状化層が厚く堆積しており、地震による変形量が大きく、高度の解析技術、最適な地盤改良工法・施工方法の選定等、高い設計力が求められる(図6)。

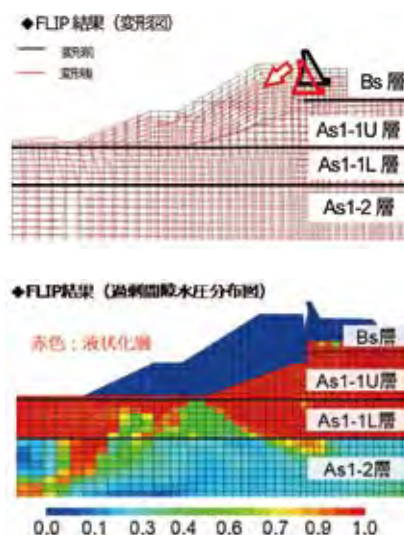


図-6 数値解析による護岸の変形等の把握

<施工の困難性>

コンビナート内では配管が無数に張り巡らされており、危険物の隣接する狭隘な区間や、貨物の荷役が盛んな区間が多く、用地制約等を踏まえた最適な工法を選定する必要がある。

また、近隣施設への影響が出た場合には、迅速な設計・工法・工程の見直し等の検討・判断が求められる。

<技術的困難性>

整備延長が長く、一般的な技術(護岸の嵩上げ+液状化対策)により整備した場合、事業費・期間が、相当に大規模となることから、大幅なコスト削減、期間短縮が可能となる新技術工法の適用検討を併せて行う必要がある。

この様に、地理的条件、施工条件が地区、場所毎に変化するなど、設計・施工の困難性から、高度な設計力と施工管理、また迅速な設計の見直しによる判断が必要となるため、引き続き専門家の技術的助言を頂きながら事業を進める方針としている。

6. おわりに

大分港海岸の整備事業は、これから現地施工へと移っていく。

整備延長が長く、狭隘で危険物を取り扱う施設が多く、設計・施工難易度が非常に高い事業であるが、地域の安全・安心を守るという期待が大変大きい事業である。

整備においては、十分な調整のもと、地域の皆様のご理解とご協力を頂きながら、少しでも早く安全に完成させられるよう進めて参りたい。

(一社)防災ガールによるソフト面からの 津波防災対策について ～オレンジフラッグを津波防災の象徴に～

一般社団法人防災ガール
代表理事 田中 美咲



1. 日本の津波防災の課題

世界有数の地震大国である日本では、東日本大震災をはじめとして、これまで多くの津波被害を受けてきました。その教訓を踏まえ、行政上の施策にとどまらず、法律においてもハード面とソフト面の両面からの津波防災対策の整備が推進されているものの、特にソフト面での対策については、手法が多岐にわたっており、しかもその成果が測りづらいため、ハード面の対策に比べて計画や実行の優先順位を上げにくいことが、多くの自治体で課題となっています。

極めて大きな被害が想定されている南海トラフ地震をはじめ、私たちは、多くの命を奪いかねない津波という危機が常にすぐそばにあるなかで、国や各自治体の施策だけに頼るのではなく、防災に対して主体的に参加し、優れた取り組みに賛同していくことが重要となっています。そして、官民がそれぞれの強みを活かしあい、協力していく体制の必要性はますます高まりをみせています。

2. 防災ガールとは

私たち一般社団法人防災ガール（以下、防災ガール）は、全国の20～30代の女性を中心とした社会課題解決のために立ち上がったソーシャル・

スタートアップです。2015年に法人化し、現在はSNSを通じて1万人以上の方々の共感を集め、さらには70社以上の企業・行政・学校等と連携してきました。私たちは、「防災があたりまえの世の中をつくる」というビジョンに向けて、ボランティアのメンバーとともに日々活動を行っています。過去には、自治体の防災対策の計画・実施への協力をはじめ、文部科学省主催の防災EXPOのプロデュースや、これまでにない防災グッズの商品開発などを実施。「防災をこれからのフェーズへ」というビジョンのもと、業界全体をリードできる存在になればと考えています。

3. オレンジフラッグとは

防災ガールでは、公益財団法人日本財団と連携し、津波が発生した際に避難誘導を加速させる「オレンジフラッグ」の普及啓発に向け、様々な取り組みを行っております。

●活動の目的

東日本大震災で、私たちは自然の驚異、海の恐ろしさを知りました。一瞬にして多くの命を奪っていった大津波。けれど、東北の方々は口を揃えて言うのです。「海が悪い訳じゃない」「私たちにとって海は宝だ」と。現在の日本では、防潮堤をつくること



賛同を示すとともに、10通り以上の使い方が出来る防災アイテムでもあるミサンガ ※共感する賛同者が、キーカラーとなる「オレンジ」を身につけることで、理念への共感を可視化し、沿岸部住民だけではなく、内陸部を含めた日本全体で取り組むことが出来るよう工夫している



沿岸部でオレンジフラッグを用いた避難訓練を行う様子

で津波被害を防ごうとするハード面の対策が中心です。もちろん、そうしたハード面の整備も防災にとっては大切なことですが、それだけでは、人々と海は離れ離れになってしまったり、「想定外」が生じるたびに、海を愛する人々と海の間には高い高い壁がそびえたってしまったりすることになるのではないかと…。

「どうすれば海と共に生きることができるんだろう」と私たちは考えました。

そうしてたどり着いたのが、私たち一人ひとりが「上手に海と付き合うため」の津波防災です。ハード面の整備に頼りすぎるのではなく、私たちが海の恐ろしさも知り、特性を理解し、正しい避難場所へ迅速に避難することがで



津波避難ビルでオレンジフラッグを用いた避難訓練を行う様子

きるようになればいいのではないかと考えたのです。

そこで、私たちは海に映える「オレンジ」色を使ったフラッグを用いた津波防災のプロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトでは、緊急時にオレンジフラッグを津波避難ビル・タワーに掲げ、避難する先をわかりやすく示すほか、手旗式のオレンジフラッグで沖に出ているサーファーや遊泳者に津波が迫っていることを伝えるなど、オレンジフラッグが津波防災の合図として多くの人々に共有されることを目指しています。この目的の達成に向け、津波防災の日、防災週間、海開きなどのタイミングで、オレンジフラッグを活用した避難訓練を行い、普段から津波避難ビル・タワーを周知させることや、防災ガールの取り組みに賛同を頂いた自治体に直接赴き、その地元の人々を交えて調整を行うなど、オレンジフラッグの普及啓発に向けて日々精力的に活動を行っています。

●なぜオレンジなのか

視認性が高く、沖や浜辺から見て目立つ色として「オレンジ」を採用しています。オレンジは、青の対照色とされ、海で遊ぶ人々・沿岸部で生活する人々にとって最も視認性の高い色です。また、「失敗しても諦めない」「行動に移してから学ぶ」「喜びを分かち合う」という色の意味を持つと同時に、ショックやトラウマを表す色でもあります。災害という脅威に、人はショックを受けるからこそ、「失敗しても諦めず」、「行動に移して学び」、「喜びを分かち合う」必要があります。海に映える夕焼けの色・オレンジで、人々の心と命をつなぎたいとの思いからこの色として



地元の各団体へオレンジフラッグを贈呈した際の様子

採択しました。

●オレンジフラッグの意味

浜辺・海の場合

地震発生時

- ① 津波がくることを伝える
ビーチなど海にいる人に見える場所でオレンジフラッグを振り、海に出ている人に向けて「早く浜に上がれ」ということを伝えます
- ② 津波から避難できる場所であることを伝える
津波避難ビル・タワー等にかかげ、津波から避難できる場所であることを避難者に伝えます

海が近い街の場合

地震発生時

- ・ 津波避難ビル、タワーにオレンジフラッグを掲げ、避難できる場所を避難者に伝える

4. 全国で広まる津波防災

実際にオレンジフラッグは、2016年4月より高知県高知市、愛知県田原市、静岡県下田市等で取り入れられ、2017年からは宮崎県でも広まり始めました。

●高知県高知市の事例

高知市では、高知市の呼びかけにより市内の潮江地区にて地域の自主防災組織と中学校、大学生や地元の企業が集まり実行委員会形式でオレンジフラッグの設置・運用・普及啓発を行い、合計75本のオレンジフラッグが彼らの手によって設置されました。

元々、町内会単位での自主防災組織や校区ごとの防災連合組織など、防災に取り組む組織による防災活動が行われていましたが、今回、このオレンジフラッグのプロジェクトをきっかけとして各組織の連携が強まり、さらに地域のつながりが強化されたと聞いております。また、地元のテレビ番組にて、

これらのオレンジフラッグに関する取り組みの紹介がなされるなど、地域が一体となり津波防災への意識について高まりを見せています。

●宮崎県の事例

宮崎県はサーファーの街として現在注目され、日本中・世界中から宮崎県の海辺に人が集まっています。観光としてのサーフィンやマリンスポーツに力を入れている宮崎県では、地元住民だけでなく観光客も含めた津波からの避難対策について取り組みを進めています。津波の危険が切迫する中、避難のシンボルとなるオレンジフラッグの意味を地元住民だけでなく、観光客に対しても普及啓発することは大変重要です。このため、地元サーファーやビーチの管理者に加え、宮崎大学の学生たちで立ち上がった宮大学生消防隊や宮崎市青島の「渚の交番」など、地元の個人や団体とも連携し、オレンジフラッグの普及啓発に向け取り組みを進めています。主体的に津波防

災の緊急性・重要性を感じ、「自分たちの街は自分たちでなんとかする」という自主的な行動は県民の共感とメディアの協力を集め、徐々にオレンジフラッグが県内に広まりつつあります。

5. サーファー、ライフセーバーとの連携も！

自治体単位での津波防災対策も重要ですが、日本全国の海辺で活動する方々の協力もとても大切だと考えています。オリンピックの追加種目となったサーフィンの普及を行う一般社団法人日本サーフィン連盟をはじめ、海辺の安心安全を担う特定非営利活動法人日本ライフセービング協会やスポーツ庁等の官公庁の協力を得ながら、全国の沿岸部で活動する方々へオレンジフラッグについての普及啓発に努めています。

2016年には、一般社団法人日本サーフィン連盟の支部長会議にてオレンジフラッグのご紹介をさせていただ

いたところ、各支部での保管や緊急時の使用などの連携が実現しました。

また、特定非営利活動法人日本ライフセービング協会では、ライフセーバーになるための教科書に、すでにオレンジフラッグについてご紹介を頂いております。民間レベルにおける津波防災に対する大きなうねりを各方面に伝え続けるため、各団体においても様々なご協力を頂いております。

6. さいごに

これまでの「防災」は、自助・共助・公助という枠組みの中で、決まった手法の繰り返しであったり、トップダウンで決定した施策を形式的に実施するだけであったりということが多々ありました。しかし、これからは自助・共助・公助という枠組みそのものをなくし、すべてがグラデーションの中で重なり合い、それぞれがそれぞれの強みを活かし、明日来てもおかしくない災害に対して、総力戦で対策していくことこそが必要だと考えています。

私たちは災害で多くの尊い命を失いました。

「同じことを繰り返さない。」それが彼らにできる、私たちの最も重要で起こすべき行動だと思います。

【お問い合わせ先】

「オレンジフラッグ」にご興味を持たれた方は以下までご連絡ください。

■#beORANGE事務局

HP:<http://beorange.jp/>

Mail: info@beorange.jp

(担当:筒木(つつぎ))



宮崎県の市町村の担当者様にプロジェクトの説明をしている様子

地域における海岸美化への取組について

蒲郡信用金庫 総務部副部長
清水 宏志



1. 三河港蒲郡地区周辺地域の沿革

蒲郡の海域周辺は、温暖な気候と風光明媚な地形に恵まれ、三河湾国定公園の中心的な位置にあり、「汽笛一声新橋を」で始まる明治33年につくられた鉄道唱歌東海道編30番に「東海道にてすぐれたる 海のながめは蒲郡」と歌われるなど、東海地方では最もすぐれた自然景観の地として、古くから全国に知られており、歴史書にも「その盛況は、東京市（現東京都）民を相手にする房相（現房総）各地の海水浴場にも劣らず」との記述が残っています。

明治45年には、竹島を真正面に臨む景勝地に高級料理旅館「常盤館」が開業。菊池寛、志賀直哉、谷崎潤一



多くの文豪が愛した旧常盤館（現蒲郡クラシックホテル周辺の風景）

郎、川端康成、三島由紀夫といった大正・昭和を代表する文豪が長く滞在していたことでも知られています。

高度経済成長期においては、三河港蒲郡地区は、様々な物流、地域産業の拠点として発展し、昭和41年には国際貿易港の指定を受けています。

時代が平成に変わり、アメリカズカップに挑戦する「ニッポンチャレンジチーム」への協力（ベースキャンプを設営）、平成13年には「ラグーナ蒲郡（現ラグーナテンボス）」が開業するなどの発展を遂げ、平成22年には、三河湾ポータルネッサンス21計画に基づいた竹島埠頭西側地区の緑地化等の事業が行われ、敷地面積22,000㎡の多目的広場「竹島ベイパーク」がオープンしています。

一方、三河港蒲郡地区は現在も、海外向けの自動車輸出、海外からの木材輸入の重要拠点として成長を続けており、蒲郡港に隣接して整備され



蒲郡のシンボル竹島を臨む景観



開発が進むラグーナテンボス周辺施設

た臨海工業用地には約80社の企業が立地しています。今後においては、船舶の大型化や物流品の多様化に対応できる埠頭周辺の整備、さらにはポートセールス支援体制の構築が待たれるところです。

2. 「ECOHO TOURISM」の推進による『環境にやさしい観光都市・蒲郡』のイメージ創出と「おもてなしの心」について

蒲郡市は、地球環境保全、三河湾における観光関連プロジェクトへの参画、各事業者・市民参加による実践可能な環境活動を通して『環境にやさしい観光都市』を目指しており、加えて「ECOHO TOURISM」(自然環境・文化・歴史等を観光の対象としながら、環境の保全性と持続可能性を意識した旅行等)を提唱の上、活動の範

囲を観光客にまで広めています。

また、蒲郡観光協会においては、平成20年より「おもてなしコンシェルジュ」の認定を開始。市民をはじめとする有資格者は1,000名以上に上り、当地を

訪れた観光客の皆さんが心地よく滞在して頂くことができるよう「おもてなしの心」のこもった活動を推進しています。

3. 「がましん三河湾浄化運動」について

「がましん三河湾浄化運動」は、愛知県及び三河湾沿岸の市町村などで構成されている「豊かな海“三河湾”環境再生推進協議会」の活動趣旨に賛同し、三河湾の浄化を目的として、平成4年から25年間に亘って、当庫が毎年実施している活動であり、蒲郡市が毎年9月に実施している「秋のクリーンキャンペーン」に前後して、毎年10月に実施しています。

活動は、本部・本店職員を中心に約200名程度が参加し、原則として平日(営業日)の午前7時45分から8時15分までの約30分程度ではありますが、砂浜や岸壁に散乱している空き缶・ビ



天下の奇祭 三谷祭りの「海中渡御」



三河湾浄化運動の様子

ン類・ごみ屑等を中心に回収を行い、ごみの撤去等については蒲郡市の環境清掃課にもご協力を頂いております。

当日は、本部・本店以外の各支店においても、それぞれの店舗が所在する地域周辺の公園や河川などの清掃活動を行っており、例年のべ800人以上が活動に参加しています。

当庫は、平成25年7月、20年以上に亘る環境美化への取り組みが認められ、「海の日」海事関係功労者として国土交通大臣表彰を受賞しました。

4.「環境清掃美化の日」の設定について

当庫は、日頃よりご愛顧頂いている地域住民の方々への感謝と、地域金融機関としてのCSR(社会貢献)活動の一環として、「がましん三河湾浄化運動」以外に、毎月原則として第一月

曜日(1月、8月を除く)に店舗周辺での清掃活動を行っています。

活動は、公園、近隣河川等を中心に行っておりますが、地域のお客様との信頼関係構築の一助となっております。



春のクリーンキャンペーン(西浦海岸)の様子

5.「ごみ散乱防止宣言事業所」への登録について

当庫は、蒲郡市が条例に基づいて募集している「ごみ散乱防止事業所」への登録を平成19年5月1日に行い、前述のクリーンキャンペーンへの参加、「環境清掃美化の日」での清掃等を通じて、活動を実践しています。

蒲郡市においては、9月に実施される同キャンペーン以外に、5月にも「春のクリーンキャンペーン」を展開しており、同キャンペーンにおいて当庫では、海岸部に隣接した蒲郡市内店5店舗(三谷、形原、西浦、大塚、三谷北通)から約30名程度が参加し、ラゲーナテナボスに隣接した「豊田自動織機海陽ヨットハーバー」周辺、西浦温泉に隣接した「西浦町南明柄グラウンド」前の海岸のごみ拾いを中心に清掃活動を行っています。

6. 今後の海岸美化への取り組みについて

三河湾沿岸も含め、日本の沿岸域の環境は、高度経済成長期の公害が大きな社会問題となっていた時期に比べれば、総じて良好な状態にあります。が、今現在、海辺の持続的な利用の仕方や仕組みづくりを考える上での出発点にあるのではないのでしょうか。

海岸美化に向けて今取り組むべきことは、沿岸部の資源や環境にかかわる人々が協力しあい、それぞれの英知を結集することであり、人と人とが積極的に対話を行うことに加え、人と自然も対話を繰り返していくこと、すなわちそ

れは、我々のかけがえのない財産である『三河湾の青い海』を守るために有益である様々な取り組みを行っていくことです。

自然は言葉を語ってくれません。海やそこに生息する生物の状況を常に具に観察し、自然が発する信号をいかにタイムリーにキャッチできるかが重要であり、今後も「ECOHO TOURISM」の推進や「豊かな海“三河湾”環境再生推進協議会」の活動及び「春・秋のクリーンキャンペーン」に代表される官民一体となった取り組みが重要となるのではないのでしょうか。

当庫は迎える平成30年度には創立70年の記念すべき年を迎えます。海を

愛し、三河湾の環境保全のために少しでもお役に立てるよう、役職員一丸となって、様々な取り組みを実践して参ります。

<参考文献>

- 「人にやさしい街づくり推進計画書」
蒲郡市役所編
- 「がまごおり新世紀プラン」
蒲郡市役所編
- 「蒲郡観光交流 おもてなしハンドブック」
蒲郡市観光協会・蒲郡市役所観光商工課 発行
- 「街は碧海に映え がまごおり物語」
原著 和木康光 編集 飯島卓
- 「海辺に学ぶ 環境教育とソーシャル・ラーニング」
川辺みどり著 東京大学出版会発行



三河湾の島々を望む

全国海岸リレー紹介

北海道

みなとオアシスれぶん

～感動と癒しの空間でのおもてなし～

礼文町産業課

●はじめに

香深港は、日本最北の離島「礼文島」に位置し、南北に細長い島の南部にある本港地区と北部の船泊分港の二港からなる地方港湾です。

礼文島は約300種の高山植物が咲き誇る花の島として知られる1島1町の島で、航空路のない礼文島にとって海上交通は唯一、北海道本土と島をつなぐ要であり、香深港は年間10万人を超える観光客を迎える玄関口でもあります。



香深港夜景

このように香深港は島民の生活を支えるとともに、産業の発展に重要な役割を果たすことから、町づくりは港湾の発展と大きく繋がるものとして整備を進め、安心・安全な港湾として防災拠点となる耐震岸壁の整備、さらに平成26年度には島民や観光客の利便性を向上すべくフェリーターミナルのバリアフリー化の実施によりボーディングブリッジが完成し、より使いやすい施設へと整備が進められています。

●感動と癒しの空間づくり

平成23年度に北海道の離島として初めて「みなとオアシス」に登録された礼文町の拠点である香深港では、夏にはさまざまなイベントが開催されるほか、町民の健康増進と礼文島を訪れる観光客の癒しの場、交流の場として交流促進施設「礼文島温泉うすゆきの湯」

もあり、トレッキングで高山植物を楽しんだ後の疲れも癒すことができます。

また、高山植物のみならず、香深港にほど近い高台には平成24年に公開された吉永小百合さん主演の映画「北のカナリアたち」の舞台となったロケセットが保存、公開され「北のカナリアパーク」として整備されており、対岸に浮かぶ雄大な利尻富士を望むことができます。

今後も、礼文島ならではの浜辺に親しむ観光資源の開発、みなとオアシスれぶんを活用した情報発信とPRを行ない、さらに港を拠点として島が一体となり訪れる観光客の方へより一層の感動と癒しを感じてもらえる空間づくりを進め、おもてなしの心を大切に、もう一度訪れたい、来て良かったと感じていただけるよう取り組みを進めていきますので、ぜひ最北の島「礼文島」へお越しください。



花火大会



北のカナリアパーク



交流促進施設
「礼文島温泉うすゆきの湯」



ボーディングブリッジ



東北

青森県八戸港(河原木地区)の漂流物対策事業について

青森県県土整備部港湾空港課

主幹 新井 茂雄

●はじめに

八戸港は青森県南東部の太平洋岸に位置し、古くは漁港・避難港として、昭和になって商港としての拡充整備が行われてきました。また、昭和39年の「新産業都市」指定を契機に工業港としての整備が進められ、東北有数の港湾へと発展を続けています。

東日本大震災では、八戸港及びその背後の市街地も津波により多大な被害を受けた

ことから、青森県では、比較的発生頻度の高い津波(L1地震津波)から生命・財産を守るため、津波高潮対策事業として防潮堤、緑地の高上げ、漂流物防護柵の整備をすることとしました。

●漂流物対策事業について

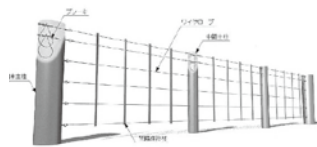
漂流物防護柵は河原木地区の石油関係施設の前面約460mに整備したもので、漁船等の漂流物が石油関係施設へ衝突することによる爆発や、火災などといった大規模

な二次災害を防ぐとともに、車輛等が海へ流出することにより、船舶航行の支障となることの防止を目的としています。

対策工の検討にあたっては、石油関係施設から棧橋までの通路を確保する必要があり、津波が引いた後、敷地内の水が引きにくかった事例を踏まえ、壁状ではなく柵状の形式を選定しました。構造は船舶や車両といった比較的大型のもの捕捉、及び防護柵の海側・陸側で物のやり取りが可能であり、かつ、利用上の支障が少ないワイヤータイプとしました。また、棧橋利用者へのヒアリング結果から、棧橋への通路や係船作業スペースが必要な箇所は杭のみとしています。現地工事は平成25年度から着手し、平成28年12月に完成しました。



八戸港(河原木地区)



ワイヤータイプ防護柵(一般図)



漂流物防護柵 設置箇所



漂流物防護柵(設置状況)

●終わりに

八戸港の津波高潮対策事業は平成29年末の完成を目指し工事を進めています。また、臨港地区の港湾労働者等の安全確保と迅速な港湾機能回復を図るため、津波避難誘導計画、及び八戸港港湾機能継続計画(BCP)を策定し、有事に備えた訓練等を行っています。

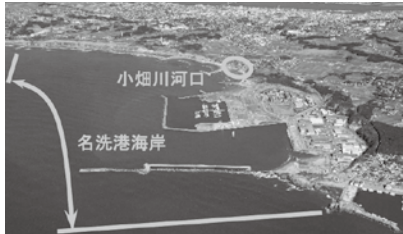
名洗港海岸の津波対策について

千葉県県土整備部港湾課
副主幹 稲富 卓洋

1. はじめに

銚子半島の南側、切り立った崖が延々と続き雄大な景色を持つ屏風ヶ浦は、太平洋の波に削り取られてできた海食崖です。「東洋のドーバー」とも呼ばれ、多くの観光客が訪れています。その地形は地質学上、鑑賞上の価値が高く、平成28年に、名勝及び天然記念物として国の文化財として指定されました。

名洗港は、北から西にかけてはこの屏風ヶ浦、南東側は太平洋に突出した長崎鼻から犬若鼻にかけての海岸線により囲まれ、古くより天然泊地を形成しています。地形的に、銚子漁港付近では遭難する船が多かったこともあり、銚子漁港の南に位置する名洗港は避難港として位置付けられています。



名洗港

2. 津波対策

平成23年3月に発生した東日本大震災では、名洗港を含む千葉東沿岸において甚大な津波被害が発生しており、本県では平成25年に海岸保全基本計画を変更しました。海岸保全施設について、これまでは高潮・高波のみを対象としていましたが、数十年から百数十年に一度の程度で到着する「比較的頻度の高い津波」に対応するため、名洗港においては、既設天端高より1.3m以上高い計画高へ変更しました。

海岸保全基本計画に基づく事業を実施するにあたり、海岸の防護・環境・利用の3つの観点について地域住民の意見を聴くことを目的に、平成27年度に海岸づくり会議を実施しました。



海岸づくり会議

3. 今後の整備

名洗港海岸における津波対策の最初の工事として、震災時に津波の遡上による被害のあった小畑川の河口における堤防の築造に、今年度より着手する予定です。小畑川は屏風ヶ浦の海岸線を割って海へ注いでおり、両岸にある屏風ヶ浦沿いの遊歩道（管理用道路）とを結ぶ堤体を築造します。捨石マウンド上にコンクリート壁を配置する混成堤とし、延長約80mのうち一部区間はオートゲートを有するボックスカルバート構造としております。

4. おわりに

屏風ヶ浦は海岸環境整備により護岸や遊歩道を整備しており、230万年前の地層を間近で見ることができます。一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



遊歩道から見る屏風ヶ浦(左奥は小畑川河口)

What's 佐渡?

新潟県佐渡地域振興局地域整備部港湾課

1. はじめに

両津港は、佐渡島の北東に深く入り込んだ両津湾の最奥部に位置しています。ピーク時には、新潟港との間に1日あたりカーフェリーが7往復、ジェットフォイルが9往復しており、乗降客及び取扱貨物量は佐渡航路全体の約9割を占め、佐渡の物流・人流の拠点となっています。

両津港海岸(原黒地区)(以下「当地区」という。)は、両津港の南側に位置し、「日本海朱鷺カップヨットレース」等のイベントで地元の方々から利用されている海岸です。

2. 海岸侵食対策事業の経緯

当地区は、明治時代までは塩田が行われるほど広い砂浜を有していましたが、昭和40



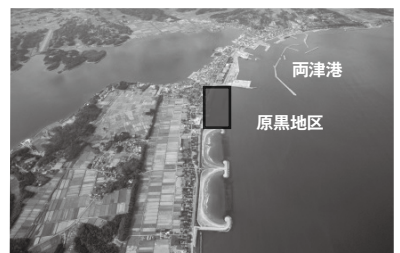
冬の風浪被害の様子

年代から海岸侵食が進み、その対策として昭和45年度から離岸堤の整備が行われてきました。しかし、離岸堤の整備後も侵食が進んできたことから、侵食防止及び越波防止を目的とした、面的防護方式による海岸保全施設整備を進めています。

当地区では、地区内を通る主要地方道佐渡一周線の幅員狭小区間の解消を目的とした原黒バイパスと共同しながら緩傾斜護岸と潜堤の整備に取り組んでいます。

3. 現在の整備状況

平成21年度から離岸堤(潜堤)と緩傾斜護岸 770mの整備に着手し、現在は離岸堤(潜堤)約110mと緩傾斜護岸約170mの整備を残すところとなっています。



両津港海岸(原黒地区)の位置

4. 佐渡の自然・文化

佐渡島は、日本海に浮かぶ周囲262.7kmの島です。島内には、特別天然記念物に指定されているトキが生息しています。また、佐渡金銀山は世界文化遺産への登録を目指しており、豊かな自然と文化があります。

佐渡では、年間を通して様々なイベントが開かれており、春にはサイクルイベントである「スポニチ佐渡ロングライド」、夏にはプロ和太鼓集団である鼓童が主催する国際芸術祭「アース・セレブレーション」、秋には「佐渡国際トライアスロン大会」などスポーツや芸能も非常に盛んです。

関東や関西からのアクセスも良く、新潟港(新潟市)から両津港までジェットフォイルで65分、直江津港(上越市)から小木港まで高速カーフェリーで100分、寺泊港(長岡市)から赤泊港まで高速船で65分です。皆さんも一度、佐渡を訪れてみてはいかがでしょうか。



高速カーフェリー「あかね」

全国海岸リレー紹介

中部

白いビーチの玄関に来てみりん(来てみて)

田原市建設部維持管理課

— 道の駅「あかばねロコステーション」—

●はじめに

田原市は、愛知県の南端に位置する渥美半島のほぼ全域を占め、北は三河湾、南は太平洋、西は伊勢湾を臨み三方を海に囲まれています。

また、太平洋を流れる黒潮の影響を受けるため温暖な気候で、「常春の渥美半島」とも呼ばれ、降雪もめったにありません。

このため、多くの観光客が訪れる機会が多く、中でも海のレジャースポットの多い赤羽根地区には、サーフィンをはじめ年間20万人を超える観光客が訪れています。

●運営方針

道の駅「あかばねロコステーション」は、地域の特性や地域資源を最大限活用して

いくため、地元農家と連携して地元産の花や野菜を販売し、また隣接する赤羽根漁港から水揚げされるシラスの加工販売や工場見学、施設からほど近くサーフィンのポイントである赤羽根ロコポイントを利用したサーフィンスクールの開催などを運営に取り入れ、多目的にニーズ対応を考慮しています。

施設は海岸に隣接しているため、2階展望デッキから見渡せる太平洋の眺めは絶景です。

管理運営方式は指定管理者方式を採用しており、現在は㈱田原観光情報サービスセンターに委託しています。

そして、観光客からの要望のありました広い公共駐車場や休憩所を整備いたしま

した。また、近年発生するといわれている南海トラフ等大地震に備えて、津波等災害時の避難場所としての機能も期待されています。

●終わりに…

このような素晴らしい場所に道の駅が建設できたのも、地権者の方のご協力、国・県のご指導があつてのことだと考えています。

これからも市民・観光客にとってより価値のある、そして海岸の特性を最大限に活かした道の駅にしていくよう努力してまいります。

皆様のご利用を心よりお待ちしております。



パンフレット(田原市道路マップ)



赤羽根漁港(西)を臨むイメージ図



地元の新鮮野菜売場風景



太平洋(南)を臨む全景

近畿

福良港海岸(南あわじ市) 津波対策における取組み紹介

兵庫県土整備部土木局港湾課

1. はじめに

兵庫県淡路島の南部(南あわじ市)に位置する福良港海岸は、市域では人口・資産が密集し、沿岸は観光や漁業、造船に利用されており、防護に関する必要性が非常に高い海岸です。当海岸は南海トラフ地震の震源域に近いため津波高が非常に高く(L1津波:T.P+5.3m、L2津波:T.P+8.1m)、甚大な浸水被害が想定されています。



減させ(95→50ha)、浸水深も概ね1m未満に抑えます。L2津波においても浸水面積を2割削減させます(119→91ha)。

3. 津波防災ステーションの整備

また、当地域における津波被害を軽減させるために、水門・陸閘等の海岸保全施設を効果的かつ迅速に管理制御を行う施設として津波防災ステーション(愛称：うずまる)を整備しています(平成22年完成)。閉鎖方法は、J-ALERTによる自動閉鎖を基本とし、基地局からの遠隔操作によるバックアップ体制もっています。また、建物内の防災学習室は、地元住民の防災意識啓発や小・中学生の防災学習の場として活用しており、日常的な啓発

活動を通じ地元住民の防災意識の向上を図っています。当施設は鳴門海峡の渦潮観潮船乗り場に隣接しており、全国から訪れる観光客に対しても津波の恐ろしさや津波対策に取り組む地域をアピールする情報発信基地にもなっています。



福良うずまるフェスタ

2. 福良港湾口防波堤の整備

そこで、当地域の津波高が非常に高いため、背後地の土地利用や港湾利用に配慮しつつ、津波の浸水被害を軽減するため湾口防波堤(L=1,100m

水門1基含む)を整備することとしています。これにより、L1津波による浸水面積を5割縮



4. おわりに

当地域の津波対策は、平成35年度の完成を目指し事業を進めています。引き続き、住民の安全確保のため、一日も早い施設整備に努めて参ります。福良港は、渦潮観潮船の他、おいしい海の幸もお薦めのポイントです。阪神エリアからも車で約2時間弱で訪れることができますので、近くにお越しの際は、ぜひ福良港へお立ち寄り下さい。

鳥取港賀露西浜海岸清掃ボランティア

鳥取県県土整備部空港港湾課

●はじめに

鳥取港は鳥取県東部に位置し、かつては賀露港と呼ばれ、戦国時代には毛利の因幡への進出に利用され、秀吉の鳥取城攻めにも拠点として古くから利用された重要な港です。その中の賀露西浜海岸は、県内外から多くの利用客に愛されており、隣接には日本海でとれた新鮮な魚介を販売する「海鮮市場からいち」、県全域から農産物、加工品、お土産が一堂に



海水浴状況



清掃活動

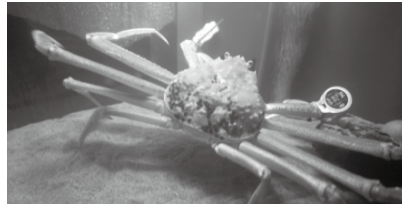
揃った地場産プラザ「わたたいな」、山陰の冬の味覚松葉がになどを展示する入館無料の水族館「とっとり賀露かっこ館」があり、多くの観光客が訪れる観光スポットとなっています。

●鳥取港賀露西浜海岸清掃ボランティア

賀露西浜海岸清掃ボランティアは毎年、海水浴場オープン前の7月上旬に活動を行っています。活動開始から10年以



清掃活動



とっとり賀露かっこ館展示「初競り130万の値がついた松葉がに」

上が経過し、近年では地元住民や、港湾関係者だけではなく学生といった若者にも協力していただくなど官民一体となった活動の展開していることにより、年々、一般の方の参加者も増加しており海岸ボランティアへの意識が高まっているのを感じています。

平成28年度には雨天にもかかわらずNPO法人鳥取・賀露みなとオアシスを初めとする7団体、約120名の参加があり、約500kgのゴミが回収され、汗の滲む参加者からは「今年も綺麗な海岸で海水浴シーズンを迎えることができ嬉しい。」との声も聞くことができました。

今後もこの活動を続け、鳥取港の美しい海岸を未来に繋げていきたいと考えています。

●おわりに

鳥取港は平成22年10月に世界ジオパークネットワークへの加盟認定された「山陰海岸ジオパーク」の西側に位置しており日本一の鳥取砂丘に隣接する風光明媚な魅力あふれる観光地を形成しています。皆様のお越しを心からお待ちしております。

「高知港海岸 直轄海岸保全施設整備事業 着工式典」について

国土交通省 四国地方整備局 高知港湾・空港整備事務所

●はじめに

国土交通省四国地方整備局高知港湾・空港整備事務所では、切迫する南海トラフ巨大地震・津波に備えるため、図1に示す3つのラインで津波から背後地を守る「三重防護」の方針により、高知港海岸における海岸保全施設の整備を行います。

●着工式典

今年度より工事に着手することから、平成29年5月14日に「高知港海岸 直轄海岸

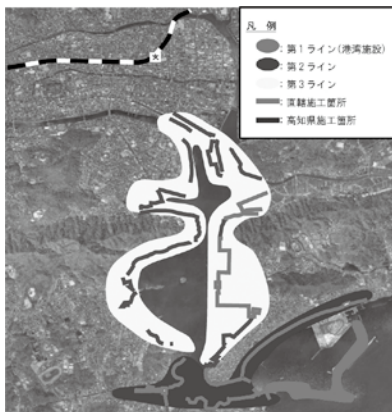


図1 高知港海岸における三重防護のイメージ

保全施設整備事業 着工式典」を開催致しました。着工式典には、山本農林水産大臣をはじめ地元選出の国会議員、高知県知事、高知市長、地元関係者、経済界や報道関係者など約130名の皆様にご出席頂きました。

着工式典は、主催者である田中国土交通副大臣の式辞から始まり、「南海トラフ巨大地震について、三重防護による整備を進めることが県都高知市を守るため非常に重要であり、早期の完成に向け安全かつ着実に事業を実施していく。」との挨拶がありました。

引き続き、尾崎高知県知事より「三重防護は県全体の防災の観点からもきわめて重要な事業。この事業により長期浸水もできる限り



田中国土交通副大臣 式辞

防ぐことができる。次の南海トラフ地震に間に合うよう、関係者の力添えをお願いしたい。」との挨拶があり、続い



鑑入れの様子

て、来賓の国会議員によるご祝辞、地元代表の岡崎高知市長からの挨拶がありました。

その後、事業の安全かつ着実な実施を祈念して、山本農林水産大臣をはじめ代表者15名による鑑入れが行われ、式典の最後には、高知市役所踊り子隊による「正調よさこい鳴子踊り演舞」が披露されました。

また式典後には、祝賀行事として高知港振興協会主催による「もち投げ」が行われ、紅白のお餅が来場者の方々に向かって投げられ、会場は大いに盛り上がりました。

●おわりに

本事業の実施にあたっては、地震・津波対策の早期完成を目指すことはもとより、高知港海岸が地域の皆様に愛されるよう、日常の利用、景観、環境面に配慮しつつ事業推進に取り組んで参ります。

全国海岸リレー紹介

九州

佐世保港海岸(鹿子前地区)海岸環境整備事業

佐世保市港湾部みなと整備課

●はじめに

佐世保港は長崎県の北西部に位置しており、入口が1kmと狭く、ヤツデの葉に形が似ていることから「葉港(ようこう)」とも呼ばれる静穏性に優れたみなどです。

明治22年の海軍鎮守府開庁により軍港として整備が進められ、長く軍港として栄えたのち、昭和26年に重要港湾、翌27年に佐世保市が港湾管理者に指定され、商港機能と防衛機能の共存した多様な機能を持つ港として運営を行っています。

●交付金による海岸環境整備

佐世保港海岸(鹿子前地区)は、佐世保市街地の南西約4kmに位置しており、本市の観光資源である西海国立公園九十九島の

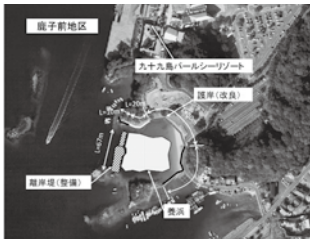
風景や、遊覧船やシーカヤック等を楽しむことができる九十九島パールシーリゾートなどがあり、近年多くの観光客が訪れている場所です。また、当該地区は、昭和39年から海水浴場が開設されておりますが、波浪により海浜と護岸が浸食され、さらに海底の洗掘など安全性が確保されていない状況にあったことから、平成24年から遊泳禁止の措置を取ることとしました。

市としては限りある水辺空間を利用者が安全で快適に利用できるよう、平成24年から社会資本整備総合交付金を活用した海岸環境整備事業に着手し、離岸堤、護岸、養浜等の整備を実施しております。なお、本地区は西海国立公園内に位置していることから、自然と調和す

るよう、離岸堤の被覆石等に自然石を使用し、護岸部分につきましては、緩傾斜階段構造とし、新たにスロープを設けるなど、利便性の向上を図っております。

●おわりに

鹿子前地区海岸は、市民の憩いの場として利用されており、本市の貴重な親水空間として位置づけております。市民の方からも利用の再開を望む声が多くあることから、引き続き事業の推進を行い、1日も早く供用を開始できるよう事業の進捗に努めてまいります。



設計概要



九十九島パールシーリゾート



整備イメージ(上段:整備前、下段:整備後)

沖縄

金武湾港海岸(ギンバル地区)海岸環境整備事業

沖縄県 土木建築部 海岸防災課

●はじめに

金武(きん)湾港海岸(ギンバル地区)は、沖縄本島東海岸金武町に位置する自然豊かな砂浜海岸で、米軍の上陸訓練場として利用されてきました。

平成23年7月、訓練場跡地が全面返還され、かねてより地元金武町が熱望してきた「ギンバル訓練場跡地利用計画」が実現に向け動き出しています。

●ギンバル訓練場跡地利用計画

金武町が定める跡地利用計画は、訓練場全域を健康と癒やしが実現できるリゾート地として医療リハビリ関連4施設や野球場、サッカー場を整備、また、民設民営による温泉施設も公募により導入する他、金武湾港海岸(ギンバル地区)一帯には、世界屈指の大型リゾート施設も誘致して町の活性化、雇用拡大を目指しています。

●事業内容

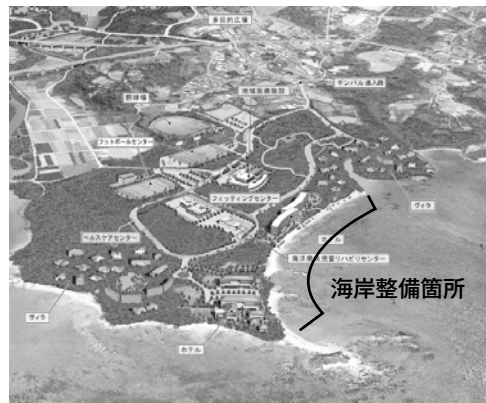
沖縄県では、21世紀ビジョン基本計画の中で、駐留軍用地跡地の計画的な整備を図る観点から地元金武町と連携し、金武湾港海岸(ギンバル地区)に海岸環境整備事業を導入して緩傾斜護岸や突堤、養浜を整備し、平成29年度から工事を行うこととしております。

●おわりに

金武湾港海岸(ギンバル地区)海岸環境整備事業により、地元住民や観光客、施設利用者に自然景観と調和した沖縄らしい海岸空間を是非堪能してもらいたいと考えております。



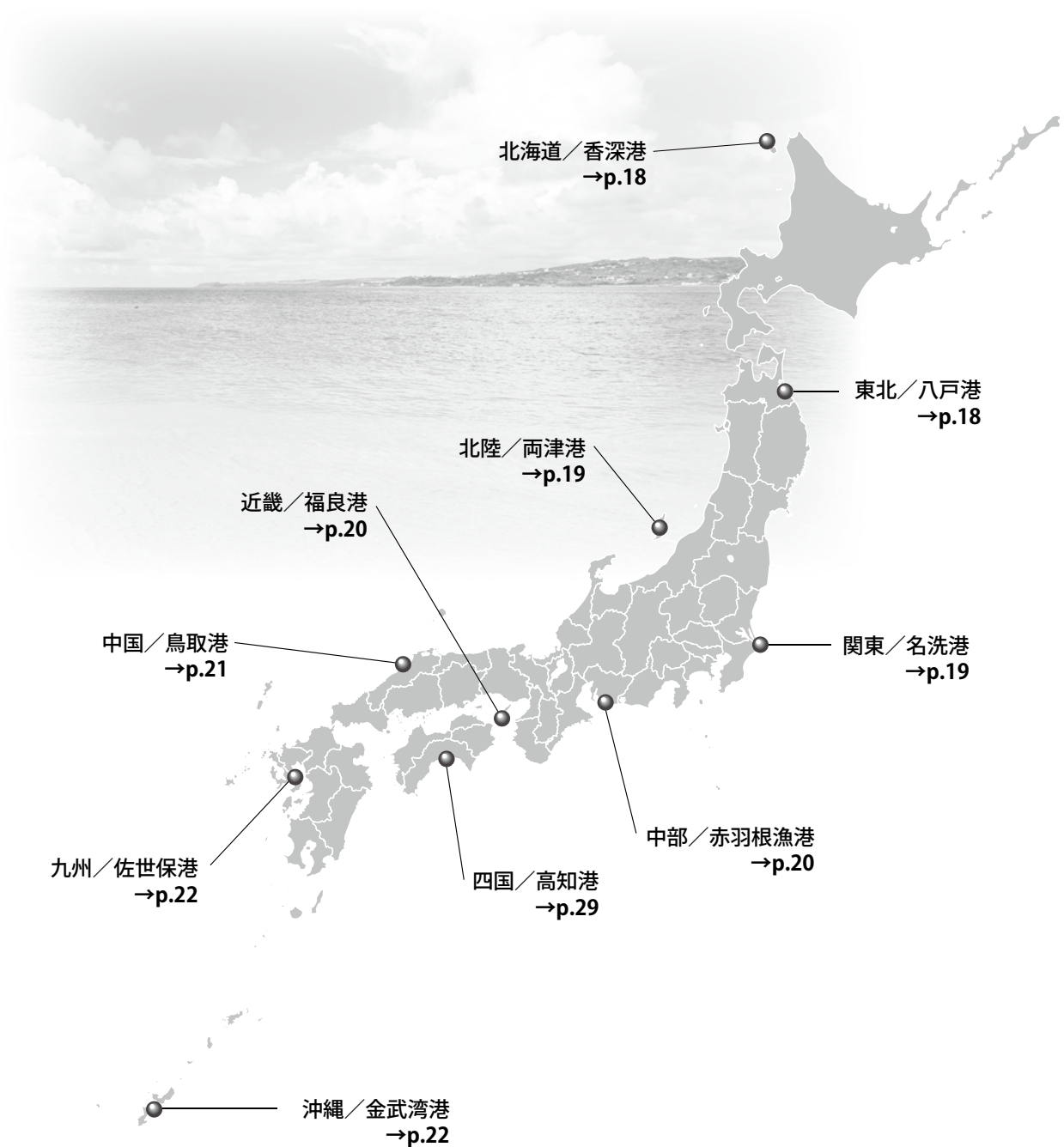
位置図



跡地利用計画図(抜粋)



整備後の利用イメージ
写真:中城湾港海岸(安座真地区)



データで見る海岸・防災

①東日本大震災で被災した港湾・海岸の復旧状況

○東日本大震災では八戸港から鹿島港など26港^{※1}が被災しました。その被災報告額は約4,138億円に及んでいます。

○各港に設置された協議会において策定された「産業・物流復興プラン」に基づき、復旧工程計画に定められた(復旧に期間を要する防波堤等を除く)全ての港湾施設について本格復旧を目指します。また、復旧に期間を要する港湾防波堤、海岸保全施設については、工程管理等適切に実施し早期の完了を目指します。

1 (a)港湾の復旧状況(暫定利用可能岸壁数)(平成29年3月末現在)

八戸港以南の水深4.5m以深の公共岸壁(公社含む)が対象。

港名	港格	①震災前 バース数	②暫定利用 可能バース数 ※2	(②/①)	③本復旧済み バース数 ※3	(③/①)	④本復旧工事 着手済みバース数 ※4	(④/①)	
1	八戸港	重要	44	44	100%	44	100%	44	100%
2	久慈港	重要	24	24	100%	24	100%	24	100%
3	宮古港	重要	26	26	100%	26	100%	26	100%
4	釜石港	重要	7	7	100%	7	100%	7	100%
5	大船渡港	重要	10	10	100%	10	100%	10	100%
6	仙台塩釜港 (石巻港区)	国際拠点	31	31	100%	27	87%	27	87%
	仙台塩釜港 (塩釜港区)	国際拠点	20	20	100%	18	90%	18	90%
	仙台塩釜港 (仙台港区)	国際拠点	22	22	100%	22	100%	22	100%
7	相馬港	重要	13	13	100%	13	100%	13	100%
8	小名浜港	重要	72	72	100%	72	100%	72	100%
9	茨城港 (日立港区)	重要	18	18	100%	18	100%	18	100%
	茨城港 (常陸那珂港区)	重要	25	25	100%	25	100%	25	100%
	茨城港 (大洗港区)	重要	13	13	100%	13	100%	13	100%
10	鹿島港	重要	18	18	100%	18	100%	18	100%
小計(国際拠点港湾・重要港湾)			343	343	100%	337	98%	337	98%
1	八木港	地方	4	4	100%	4	100%	4	100%
2	小本港	地方	1	1	100%	1	100%	1	100%
3	気仙沼港	地方	6	6	100%	5	83%	6	100%
4	女川港	地方	4	4	100%	4	100%	4	100%
5	久之浜港	地方	1	1	100%	1	100%	1	100%
6	江名港	地方	7	7	100%	7	100%	7	100%
7	中之作港	地方	7	7	100%	7	100%	7	100%
小計(地方港湾)			30	30	100%	29	97%	30	100%
合計			373	373	100%	366	98%	367	98%

※1 上記17港の他、御崎港、雄勝港、金華山港、表浜港、荻浜港、翁島港、川尻港、河原子港、土浦港にて被災し、計26港が被災。

※2 港長(海上保安部)、港湾管理者、地方整備局(東北、関東)の確認により暫定利用が可能と判断された施設。
施設の大部分で復旧工事が必要であり、利用にあたっては、吃水制限や上載荷重制限がかかっている施設もある。

②暫定利用可能バース数には、③本復旧済みバース数も含む。

※3 査定を受けて採択された災害復旧事業が完了したバース数(被害のない施設も含む)。

※4 着手済みは工事契約済みの施設。

(b) 港湾海岸の復旧状況(平成29年3月末現在)

港湾海岸の復旧状況

	地区海岸数	被災地区海岸数(注)				
		うち本復旧 工事着工済	(着工率)	うち本復旧 工事完了	(完了率)	
被災6県計	113	59	55	(93%)	21	(36%)
青森県	34	1	1	(100%)	1	(100%)
岩手県	14	13	12	(92%)	4	(31%)
宮城県	35	32	29	(91%)	4	(13%)
福島県	11	8	8	(100%)	7	(88%)
茨城県	7	3	3	(100%)	3	(100%)
千葉県	12	2	2	(100%)	2	(100%)

(参考1) 海岸全体の復旧状況(農林水産省及び水産庁所管海岸を含む)

	地区海岸数	被災地区海岸数(注)				
		うち本復旧 工事着工済	(着工率)	うち本復旧 工事完了	(完了率)	
被災6県計	983	500	460	(92%)	211	(42%)
青森県	275	7	7	(100%)	7	(100%)
岩手県	120	108	107	(99%)	42	(39%)
宮城県	286	264	225	(85%)	82	(31%)
福島県	109	85	85	(100%)	44	(52%)
茨城県	82	26	26	(100%)	26	(100%)
千葉県	111	10	10	(100%)	10	(100%)

(参考2) 海岸の復旧状況の推移(被災6県計)

	地区海岸数	被災地区海岸数(注)				
		うち本復旧 工事着工済	(着工率)	うち本復旧 工事完了	(完了率)	
平成26.3末時点	983	471	318	(68%)	86	(18%)
平成27.3末時点	983	501	397	(79%)	105	(21%)
平成28.3末時点	983	501	440	(88%)	148	(30%)
平成29.3末時点	983	500	460	(92%)	211	(42%)

(注) 福島県の帰還困難区域は含まれていない

平成26年9月末より、復旧を行わないとした3地区海岸を除外

参考1及び2について、平成29年3月末より、復旧を行わないとした1地区海岸を除外

データで見る海岸・防災

②各地域における東日本大震災以降の想定津波の検討状況

[凡例] ◎:検討結果公表済、○:検討中、()内は公表日または検討開始日、☆:津波防災地域づくり法に基づき設定

地方	地域		L1 津波の検討状況		L2 津波の検討状況	
				想定津波高 (T.P.)		想定津波高 (T.P.)
北海道	北海道	太平洋側	◎ (H25.2)	1.3 ~ 12.8 m ※津波のせり上がり高	◎ (H24.6)	1.1 ~ 34.6 m
		日本海側	○ (H27年度~)		○ (H24年度~) ☆	
		オホーツク海側	—		—	
東北	青森県	太平洋側	◎ (H25.1 検討済) (八戸港公表 H25.3)	2.1 ~ 7.0 m 八戸港内のみ公表	◎ (H27.3) ☆	1.5 ~ 23.5 m
		陸奥湾		非公表	◎ (H27.3) ☆	1.1 ~ 3.7 m
		日本海側		非公表	◎ (H27.3) ☆	1.6 ~ 22.6 m
		秋田県	◎ (H25.9)	3.0 ~ 6.0 m	◎ (H28.3) ☆	9.8 ~ 14.1 m
		山形県	◎ (H27.3)	3.6 ~ 4.5 m	◎ (H28.3)	8.8 ~ 13.3 m
		岩手県	◎ (H23.10)	4.8 ~ 13.7 m	◎ (H23.10)	非公表
		福島県	◎ (H23.10)	2.4 ~ 8.7 m	○ (H23.7~) ☆	未公表
		宮城県	◎ (H23.9)	1.5 ~ 13.7 m	◎ (H23.9)	2.4 ~ 24.0 m
関東		茨城県	◎ (H24.8)	3.1 ~ 4.2 m ※各地域海岸の最大水位	◎ (H24.8) ☆	4.1 ~ 14.8 m
	千葉県	東京湾沿岸 千葉東沿岸	◎ (東京湾 H25.3) (千葉東 H25.5)	2.6 ~ 4.9 (東京湾) 1.2 ~ 7.8 (千葉東)	○	
	東京都	東京湾内	—		◎ (H24.4 元禄型関東地震、 東京湾北部地震)	2.6 m
		伊豆 小笠原諸島	◎ (H26.1)	2.5 ~ 6.8 m	◎ (H24.4: 元禄型関東地震) (H25.5: 南海トラフ巨大地震・ 元禄型関東地震)	7.3 ~ 24.5 m
		神奈川県	◎ (H27.1)	1.8 ~ 7.1 m	◎ (H27.3) ☆	3.5 ~ 24.9 m
北陸		新潟県	○ (H25.10 ~)		◎ (H25.12) ※修正版	0.7 ~ 7.3 m
		富山県	○ (H29.3)	未公表	◎ (H29.2) ☆	2.4 ~ 10.2 m
		石川県	—		◎ (H24.4)	0.5 ~ 18.6 m
		福井県	—		◎ (H24.9)	0.8 ~ 8.7 m
中部		静岡県	◎ (H27.6.18)	1.0 ~ 15.0 m	◎ (H27.1.30) ☆	1.0 ~ 33.0 m
		愛知県	◎ (H26.11 ~)	2.6 ~ 10.2 m	◎ (H26.11 ~) ☆	2.2 ~ 20.6 m
		三重県	◎ (H26.3 ~)	2.3 ~ 11.7 m	◎ (H27.3) ☆	4.0 ~ 27.0m

【凡例】 ◎:検討結果公表済、○:検討中、()内は公表日または検討開始日、☆:津波防災地域づくり法に基づき設定

地方	地域	L1 津波の検討状況		L2 津波の検討状況		
			想定津波高 (T.P.)		想定津波高 (T.P.)	
近畿	大阪府	◎ (H28.4)	1.6 ~ 4.2 m	◎ ☆ (H25.8)	3.2 ~ 4.9 m	
	兵庫県	◎ (H28.4:大阪湾・播磨) (H28.3:淡路) ○ (H29.4~:但馬)	1.1 ~ 5.8 m	◎ (H25.12:大阪湾・淡路) (H26.2:播磨) ○ (H27.4~:但馬)	2.0 ~ 8.1 m	
	和歌山県	◎ (H26.10:東海・東南海・ 南海3連動地震)	~ 9.9 m	◎ ☆ (H25.3)	~ 18.3 m	
	京都府	○ (H28.3)		◎ ☆ (H28.3)	0.6 ~ 10.9 m	
中国	岡山県	◎ (H26.4.15)	1.9 ~ 3.0 m	◎ ☆ (H25.3 及び H25.7) ※1	2.3 ~ 3.3 m	
	広島県	◎ (H26.9)	2.1 ~ 3.1 m	◎ ☆ (H25.3)	3.1 ~ 4.0 m	
	山口県	瀬戸内海側	◎ (H27.11)	1.6 ~ 2.8 m	◎ ☆ (H25.12)	2.4 ~ 3.8 m
		日本海側	◎ (H27.11)	1.4 ~ 2.5 m	◎ ☆ (H27.3)	2.0 ~ 6.0 m
	鳥取県	○ (H23.7 ~)		○ (H23.7 ~)	3.2 ~ 7.6 m	
	島根県	◎ (H29.3.24)	0.9 ~ 5.9 m	○ (H29.3.24)	4.2 ~ 7.9 m	
四国	高知県	◎ (H25.11)	2.7 ~ 19.3 m	◎ ☆ (H24.12)	13.0 ~ 34.0 m	
	徳島県	◎ (H25.3)	2.0 ~ 13.1 m	◎ ☆ (H24.10)	2.1 ~ 20.9 m	
	香川県	◎ (H26.3)	2.3 ~ 3.2 m	◎ ☆ (H25.3)	2.8 ~ 3.8 m	
	愛媛県	◎ (H26.6)	2.4 ~ 5.4 m	◎ ☆ (H25.6)	3.1 ~ 21.3 m	
九州	福岡県	検討済 (H29.3)	未公表	◎ ☆ (H28.2)	1.8 ~ 4.6 m	
	佐賀県	—		◎ ☆ (H27.7)	2.2 ~ 3.5 m	
	長崎県	○ (H24.4 ~)		◎ ☆ (H26.3)	2 ~ 7 m	
	熊本県	—		◎ ☆ (H25.3)	2.0 ~ 3.8 m	
	大分県	検討済 (H27.9)	未公表	◎ ☆ (H25.2)	2.7 ~ 13.5 m	
	宮崎県	◎ (H25.12)	2.4 ~ 7.8 m	◎ ☆ (H25.2)	8.8 ~ 16.0 m	
	鹿児島県	検討済 (H27.3)	未公表	◎ ☆ (H26.9)	2.2 ~ 12.8 m	
沖縄	◎ (H28.3)	1.0 ~ 2.6 m	◎ ☆ (H27.3)	2.8 ~ 34.3 m		

※1:岡山県においては、津波防災地域づくり法に基づいた津波浸水想定を行い、浸水想定図等をH25.3に公表していたが、地域防災計画の見直しを進めるに当たり、新たに国の被害想定に準じて「津波の越流後に堤防等が破壊される」条件での津波浸水想定を行い、地震・津波被害想定をH25.7に公表している。

データで見る海岸・防災

③「港湾の事業継続計画」における全国の検討状況一覧（平成29年3月末現在）

【地域の「港湾の事業継続計画」等】

地域名	協議会等	設立時期	検討状況	策定時期
北海道	道央圏港湾連携による防災機能強化方策検討会	H23.9.7	◎	H24.4
北海道	北海道太平洋側港湾BCP策定検討会	H27.2.16	◎	H28.4
東北	東北広域港湾防災対策協議会	H25.3.5	◎	H27.2
東京湾	港湾BCPによる協働体制構築に関する東京湾航行支援協議会	H21.9.8	◎	H27.3
関東	関東港湾広域防災協議会	H26.3.27	○	(H29d)
北陸	北陸地域における港湾の地震・津波対策協議会	H25.3.8	◎	H29.3
伊勢湾	伊勢湾港湾機能継続計画検討会議	H25.11.27	◎	H28.2
大阪湾	大阪湾港湾機能継続計画推進協議会	H23.9.16	◎	H26.3
広島湾	広島湾連携BCP関係者会議	H22.10.4	◎	H24.2
四国	四国の港湾における地震・津波対策検討会議	H23.9.28	◎	H26.3
九州東岸地域	九州東岸地域の港湾における地震・津波対策検討会議	H23.10.5	◎	H24.7

◎ 策定済み	10件
○ 策定中	1件
－ 準備中	0件
合計	11件

【各港別「港湾の事業継続計画」】

港名	協議会等	設立時期	検討状況	策定時期
室蘭港	室蘭港湾BCP協議会	H27.11.25	◎	H28.3.31
苫小牧港	苫小牧港湾BCP策定協議会	H26.7.1	◎	H27.3
石狩湾新港	石狩湾新港湾BCP協議会	H28.10.4	◎	H29.3.7
稚内港	稚内港湾BCP協議会	H28.6.27	◎	H29.3.3
函館港	函館港湾事業継続連絡協議会	H28.7.1	◎	H29.2.8
小樽港	小樽港湾BCP協議会	H28.11.4	◎	H29.3.30
釧路港	釧路港湾BCP協議会	H24.11.28	◎	H26.3.31
留萌港	留萌港湾BCP協議会	H27.8.25	◎	H28.12.27
十勝港	十勝港湾BCP策定協議会	H28.6.30	◎	H28.9.20
紋別港	紋別港湾BCP協議会	H28.5.27	◎	H29.3.28
網走港	網走港湾BCP協議会	H28.12.16	◎	H29.3.24
根室港	根室港湾BCP協議会	H29.3.23	◎	H29.3.29
八戸港	八戸港湾機能継続協議会	H25.6.14	◎	H25.3
青森港	青森港湾機能継続協議会	H25.7.29	◎	H26.3
むつ小川原港	むつ小川原港湾機能継続協議会	H27.9.4	◎	H28.3.2
宮古港	宮古港湾機能継続協議会	H27.2.24	◎	H27.6.30
大船渡港	大船渡港湾機能継続協議会	H27.2.26	◎	H27.6.30
久慈港	久慈港湾機能継続協議会	H27.2.23	◎	H27.6.30
釜石港	釜石港湾機能継続協議会	H25.8.2	◎	H27.6.30
仙台塩釜港	仙台塩釜港湾機能継続協議会	H25.7.23	◎	H27.3
秋田港	秋田港湾機能継続協議会	H25.5.29	◎	H26.10
船川港	船川港湾機能継続協議会	H25.5.29	◎	H26.10
能代港	能代港湾機能継続協議会	H25.5.29	◎	H26.10
酒田港	酒田港湾機能継続協議会	H25.5.28	◎	H27.3
小名浜港	小名浜港の港湾機能継続協議会	H25.7.24	◎	H26.11
相馬港	相馬港の港湾機能継続協議会	H27.3.3	◎	H28.3.2
茨城港	港湾BCPによる協働体制構築に関する茨城港連絡協議会	H24.7.26	◎	H29.3.31
鹿島港	港湾BCPによる協働体制構築に関する鹿島港連絡協議会	H24.7.27	◎	H29.3.31
千葉港	千葉港BCP連絡協議会	H24.10.10	◎	H26.6.9
木更津港	木更津港BCP連絡協議会	H25.2.27	◎	H26.6.9
東京港	港湾BCPによる協働体制構築に関する東京港連絡協議会	H24.5.18	◎	H25.3.4
横浜港	港湾BCPによる協働体制構築に関する横浜港連絡協議会	H21.9.8	◎	H27.3.23
川崎港	港湾BCPによる協働体制構築に関する川崎港連絡協議会	H23.2.21	◎	H27.3.24
横須賀港	港湾BCPによる協働体制構築に関する横須賀港連絡協議会	H24.3.30	◎	H27.3.19
新潟港	新潟港湾BCP協議会	H25.3.15	◎	H26.3.25
両津港	佐渡地域港湾BCP協議会	H25.10.25	◎	H26.3.20
小木港	佐渡地域港湾BCP協議会	H25.10.25	◎	H26.3.20
直江津港	直江津港湾BCP協議会	H25.11.29	◎	H27.2.27
伏木富山港	伏木富山港災害時における官民連携協議会	H25.2.25	◎	H26.12.19
七尾港	七尾港災害時連携協議会	H25.3.27	◎	H27.3.31
金沢港	金沢港災害時連携協議会	H24.7.2	◎	H26.3.31
敦賀港	事業継続検討会	H25.3.19	◎	H28.1.18
清水港	清水港防災対策連絡協議会	H25.7.8	◎	H27.2
田子の浦港	田子の浦港防災対策連絡協議会	H25.9.24	◎	H26.3
御前崎港	御前崎港みなと機能継続計画策定協議会	H26.1.23	◎	H26.7
名古屋港	名古屋港BCP協議会	H27.3.25	◎	H27.6.1
衣浦港	衣浦港BCP協議会	H27.3.20	◎	H27.3.20
三河港	三河港BCP協議会	H27.3.20	◎	H27.3.20
四日市港	四日市港湾機能継続計画協議会	H27.10.8	◎	H27.10.8
津松阪港	津松阪港湾機能継続計画協議会	H27.10.8	◎	H27.10.8
尾鷲港	尾鷲港湾機能継続計画作業部会	H28.11.17	◎	H29.3.10
舞鶴港	京都舞鶴港湾BCP協議会	H27.7.9	◎	H29.3.2
大阪港	大阪港BCP協議会	H27.3.25	◎	H28.3.18

堺 泉 北 港	堺泉北港湾事業継続計画協議会	H27.9.28	◎	H28.3.24
阪 南 港	阪南港湾事業継続計画協議会	H27.9.28	◎	H28.3.24
神 戸 港	神戸港湾 BCP 協議会	H27.11.5	◎	H28.3.17
姫 路 港	姫路港湾 BCP 協議会	H29.2.10	◎	H29.3.23
尼崎西宮芦屋港	尼崎西宮芦屋港湾 BCP 協議会	H27.12.11	◎	H28.2.18
東 播 磨 港	東播磨港湾 BCP 協議会	H28.11.30	◎	H29.3.28
和歌山下津港	和歌山下津港湾機能継続協議会	H27.8.5	◎	H28.3.30
日 高 港	日高港湾機能継続協議会	H28.12.1	◎	H29.3.1
鳥 取 港	鳥取港 BCP 連絡協議会	H27.5.15	◎	H28.3.15
境 港	境港 BCP (事業継続計画) 連絡協議会	H27.12.7	◎	H28.3.25
浜 田 港	浜田港・三隅港 BCP 連絡協議会	H28.2.12	◎	H28.7.25
三 隅 港	浜田港・三隅港 BCP 連絡協議会	H28.2.12	◎	H28.7.25
西 郷 港	西郷港 BCP 連絡協議会	H28.2.9	◎	H29.3.3
岡 山 港	岡山港 BCP 協議会	H27.12.24	◎	H29.3.15
宇 野 港	宇野港 BCP 協議会	H27.11.19	◎	H29.3.15
水 島 港	水島港 BCP 協議会	H27.12.22	◎	H29.3.15
福 山 港	福山港 BCP 連絡協議会	H28.7.19	◎	H29.3.30
尾道糸崎港	尾道糸崎港 BCP 連絡協議会	H28.7.28	◎	H29.3.30
広 島 港	広島港 BCP 連絡協議会	H28.4.25	◎	H29.3.30
呉 港	呉港 BCP 連絡協議会	H28.3.25	◎	H29.3.31
岩 国 港	岩国港事業継続計画協議会	H27.11.11	◎	H29.2.28
徳山下松港	徳山下松港事業継続計画協議会	H27.12.21	◎	H29.2.21
三田尻中関港	三田尻中関港事業継続計画協議会	H27.11.26	◎	H29.2.15
宇 部 港	宇部港・小野田港 BCP 協議会	H27.12.17	◎	H29.2.20
小 野 田 港	宇部港・小野田港 BCP 協議会	H27.12.17	◎	H29.2.20
徳島小松島港	大規模災害時における徳島小松島港の機能継続協議会	H27.1.23	◎	H26.3
橘 港	大規模災害時における橘港の機能継続協議会	H28.3.29	◎	H28.2.19
坂 出 港	坂出港機能継続連絡協議会	H28.3.22	◎	H29.2
高 松 港	高松港連絡協議会	H23.9.14	◎	H23.9
宇和島港	宇和島港機能継続連絡協議会	H28.9.9	◎	H29.1
松 山 港	災害時松山港活用方策検討関係者会議	H26.1.17	◎	H27.3
東 予 港	東予港湾 BCP 協議会	H28.11.11	◎	H29.2
三島川之江港	三島川之江港湾 BCP 協議会	H28.11.11	◎	H29.2
今 治 港	今治港連絡協議会	H28.6.29	◎	H28.9
新 居 浜 港	新居浜港湾 BCP 協議会	H28.8.5	◎	H29.3
高 知 港	高知港機能継続連絡協議会	H25.10.23	◎	H25.2
須 崎 港	須崎港機能継続連絡協議会	H26.12.24	◎	H26.3
宿 毛 湾 港	宿毛湾機能継続連絡協議会	H27.1.9	◎	H27.3
下 関 港	下関港事業継続推進協議会	H27.12.2	◎	H28.3.10
北 九 州 港	北九州港事業継続推進連絡会	H27.3.27	◎	H27.3
博 多 港	博多港事業継続推進連絡会	H29.2.16	◎	H29.3.27
苅 田 港	苅田港湾 BCP 策定協議会	H28.8.9	◎	H29.3.16
三 池 港	三池港湾 BCP 策定協議会	H28.8.1	◎	H29.3.15
唐 津 港	唐津港湾 BCP 協議会	H28.12.1	◎	H29.3.16
伊 万 里 港	伊万里港湾 BCP 協議会	H28.12.1	◎	H29.3.17
佐 世 保 港	佐世保港事業継続推進協議会	H28.12.26	◎	H29.3.28
長 崎 港	長崎港湾 BCP 協議会	H28.1.29	◎	H29.2.21
福 江 港	福江港湾 BCP 協議会	H28.3.18	◎	H29.3.14
郷ノ浦港	郷ノ浦港湾 BCP 協議会	H28.7.21	◎	H29.2.1
厳 原 港	厳原港湾 BCP 協議会	H28.3.14	◎	H28.11.29
熊 本 港	熊本港湾事業継続推進協議会	H29.2.20	◎	H29.3.24
三 角 港	三角港湾事業継続推進協議会	H29.2.27	◎	H29.3.24
八 代 港	八代港湾事業継続推進協議会	H29.2.21	◎	H29.3.24
中 津 港	中津港湾 BCP 連絡協議会	H27.3.11	◎	H27.3
別 府 港	別府港湾 BCP 連絡協議会	H27.8.18	◎	H27.8.18
大 分 港	大分港湾 BCP 連絡協議会	H26.5.22	◎	H26.10
津 久 見 港	津久見港湾 BCP 連絡協議会	H27.2.10	◎	H27.2
佐 伯 港	佐伯港湾 BCP 連絡協議会	H27.1.27	◎	H27.1
細 島 港	細島港湾事業継続推進協議会	H25.1.25	◎	H25.3.26
宮 崎 港	宮崎港湾事業継続推進協議会	H25.8.30	◎	H25.11.26
油 津 港	油津港湾事業継続推進協議会	H25.11.18	◎	H26.2.14
鹿 児 島 港	鹿児島港湾事業継続推進協議会	H28.11.22	◎	H29.2.10
志 布 志 港	志布志港湾事業継続推進協議会	H27.3.11	◎	H27.6.15
川 内 港	川内港湾事業継続推進協議会	H28.2.9	◎	H28.3.11
名 瀬 港	名瀬港湾事業継続推進協議会	H28.2.4	◎	H28.3.7
西 之 表 港	西之表港湾事業継続推進協議会	H28.3.3	◎	H28.3.3
那 覇 港	那覇港湾 BCP 協議会	H28.10.28	◎	H28.12.13
平 良 港	平良港湾 BCP 協議会	H28.1.29	◎	H28.3.25
石 垣 港	石垣港湾 BCP 協議会	H28.10.26	◎	H29.1.31
運 天 港	運天港湾 BCP 連絡協議会	H28.12.27	◎	H29.1.31
金 武 湾 港	金武湾港湾 BCP 連絡協議会	H28.12.27	◎	H29.1.31
中 城 湾 港	中城湾港湾 BCP 連絡協議会	H28.12.27	◎	H29.1.31

◎ 策定済み	125 港
○ 策定中	0 港
一 準備中	0 港
合 計	125 港

データで見る海岸・防災

④ 港湾海岸における水門・陸閘等の状況（平成29年3月末現在）

○津波・高潮等の災害が発生した際に、水門・陸閘等の現場操作員の安全を確保しつつ確実に閉鎖するため、操作規則に基づく操作・退避ルールの徹底や統廃合、常時閉鎖、自動化・遠隔操作化の取組を進めています。

○港湾海岸では、堤防や護岸、胸壁の前面の港湾等を利用する車両や人の通行のために多くの陸閘が設置されています。

○現在、各海岸管理者において、水門・陸閘等の効果的な管理運用体制の構築を進めています。

地方	都道府県	水門・陸閘等の施設総数				これまでに統廃合した施設数
			自動化・遠隔操作化等の施設 ^{注1}	現場で操作を伴う施設		
					常時閉鎖	
北海道	北海道	158	10	148	65	6
東北	青森県	34	0	34	32	0
	岩手県	15	6	9	9	23
	宮城県	226	100	126	126	48
	秋田県	—	—	—	—	—
	山形県	—	—	—	—	—
	福島県	3	3	0	0	0
関東	茨城県	3	1	2	2	0
	千葉県	104	19	85	22	0
	東京都	64	17	47	10	13
	神奈川県	62	1	61	8	2
北陸	新潟県	10	0	10	10	0
	富山県	—	—	—	—	—
	石川県	54	0	54	54	1
	福井県	—	—	—	—	—
中部	静岡県	196	49	147	74	4
	愛知県	330	18	312	58	30
	三重県	1,143	197	946	467	43
	津松阪港海岸（直轄）	1	1	0	0	1
近畿	京都府	2	0	2	1	0
	大阪府	432	11	421	55	4
	兵庫県	1,064	62	1,002	168	34
	和歌山県	331	30	301	83	52
	和歌山下津港海岸（直轄）	1	0	1	1	0

地方	都道府県	水門・陸閘等の施設総数				これまでに 統廃合した 施設数
			自動化・ 遠隔操作化等 の施設 ^{注1}	現場で操作を伴う施設		
					常時閉鎖	
中国	鳥取県	28	0	28	27	0
	島根県	2	0	2	1	0
	岡山県	350	0	350	60	2
	広島県	1,842	8	1,834	59	37
	広島港海岸(直轄)	99	0	99	11	0
	山口県	1,306	26	1,280	149	35
	下関港海岸(直轄)	1	0	1	1	0
四国	徳島県	438	74	364	131	62
	撫養港海岸(直轄)	23	4	19	8	11
	香川県	1,274	0	1,274	38	27
	愛媛県	492	60	432	246	3
	高知県	351	19	332	118	176
九州	福岡県	44	4	40	6	10
	佐賀県	69	22	47	22	0
	長崎県	970	16	954	14	124
	熊本県	434	75	359	91	0
	大分県	320	54	266	144	6
	宮崎県	45	0	45	9	0
	鹿児島県	170	6	164	41	0
沖縄	沖縄県	40	1	39	0	0
合計		12,406	889	11,517	2,400	742

注1:「自動化・遠隔操作化等の施設」は、自動化、遠隔操作化及びフラップゲートの施設

魚津市

産業建設部 農林水産課 課長
 山岡 晃

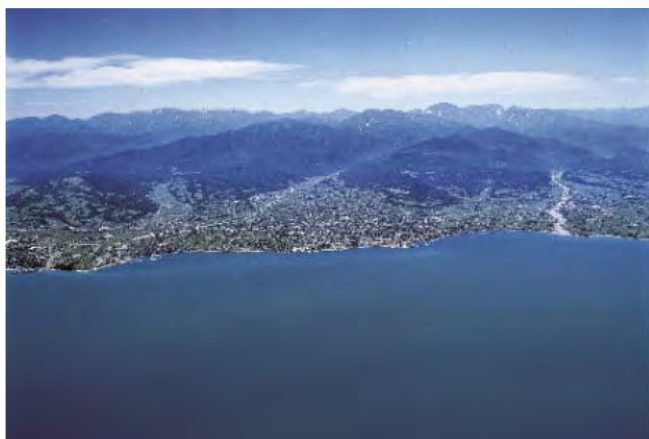


魚津市の位置

1. 魚津市の概要

魚津市は、富山県の東部にあり、富山市から東へ25kmの場所に位置しています。市内は、海拔0mから標高2,415mの毛勝三山までが、奥行きわずか約25kmに収まる大変急峻な地形から成り立っており、また、「天然のいけす」とも称される富山湾に面しています。そのため、山

に降った雨や雪が、河川水や伏流水として海に流れ、海から蒸発した水が再び山に降り注ぐといった、壮大な「水循環」が市内で完結している世界的にも珍しい土地です。このように、豊かな自然と水資源に恵まれ、特に、春先に沖合で出現する「蟹気楼」、国特別天然記念物に指定されている「埋没林」、「ホタルイカ群遊海面」は、市の三大奇観と呼ばれて



魚津市の全景



海から山並みを望む(手前は魚津埋没林博物館)



蟹気楼



魚津埋没林(魚津埋没林博物館で展示)



発光するホタルイカ



魚津のタテモン行事

います。

「魚津」の名前は、古来より好漁場に恵まれ、多くの漁業者が集まることで、街が興ったことに由来します。魚津市が面している富山湾は、水深が1000mを超えており、暖流系のブリやアジといった魚から、深海性の紅ズワイガニ、バイ、ゲンゲといった、多様な魚介類が漁獲されます。また、漁村の祭りである「魚津のタテモン行事」は昨年12月にユネスコ無形文化遺産に登録され、県内外か

らも注目されています。

農業については、豊かで良質な水を活かした、米作を中心に、大根等の野菜や、りんご、なし、ぶどうといった果樹の栽培が盛んに行われています。

本年度は、去る5月28日に、天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、「第68回全国植樹祭」が開催され、多くの方の参加のもと、森林保全や、山と海との繋がり的重要性を全国に発信しました。また、10月14(土)・

15日(日)には、全国的な海産グルメのイベントである「第10回Sea級グルメ全国大会 in 魚津」が開催されます。このようなイベントを機に、多くの方が魚津を訪れ、豊かな自然やグルメを堪能して頂きたいと思えます。

2. 魚津市のグルメ

【うおづのうまい水】

魚津を流れる河川は、市の背後に連なる立山連峰を源流としており、その一部は、地下水となり市内全域を潤しています。豊富な雪解け水は、良質で豊かな水となり、農林水産業を始めとした産業を支えています。また、地下水は水道水の水源となっており、家庭でも美味しい水を飲むことができます。

「うおづのうまい水」は、地下水をペットボトルに詰めて販売しているもので、平成29年には、モンドセレクションの最高金賞を受賞するなど品質が高く評価されています。



うおづのうまい水

富山の冬の味
魚津寒ハギ
如月王[®]



魚津寒ハギ如月王



うおづ産米

【ウマツラハギ】

魚津市では冬になるとウマツラハギが多く漁獲され、県内漁獲量の半分を占めています。身は白身で上品な味わいであり、肝は濃厚な旨みがあり珍味として珍重されています。特に全長25cm以上の個体については、徹底した品質管理のもと「魚津寒ハギ 如月王」と命名し、トップブランドとして好評を得ています。

【バイ飯】

かご縄漁で漁獲されるバイ貝を炊き込みご飯にした一品です。漁師が昔から食べていた賄飯をアレンジし、現在は市内5店舗で提供しています。平成26年には、水産物を使った知られざるご当地料理を競う全国コンテスト「Fish-1 グランプリ」で準優勝を獲得するなど、魚津の新たなご当地グルメとしてPRをしています。

【うおづ産米】

魚津市では、豊かで良質な水を背景に、コシヒカリの栽培がおこなわれており、品質や味に定評があります。JA魚津では、無洗米2合をコンパクトに立方体のパッケージに詰めた「キューブ米」を販売しており、お土産に最適です。

【新川だいこん】

新川大根の特徴は、「美人大根」とも呼ばれており、表面は、女性の肌のようにすべすべでキメが細かいことが特徴です。その為、調理する際に、味が染み込みやすく、かつ、均等に染みわたるので煮物に最適で



バイ飯



新川だいこん



加積りんご

す。また、減農薬・減肥料による農法に取り組み、地球環境に優しい栽培を行っています。

【加積りんご】

魚津市は、国内でも南端のリンゴ産地であるため、収穫時期が遅く、樹上で完熟をさせることが特徴です。そのため、蜜がたくさん詰まり、甘味が強い果実となっています。農家では、軒先販売がされており、採れたてのりんごを買うことができます。

3. 第10回Sea級グルメ 全国大会 in 魚津

魚津市では、平成29年10月14(土)・15日(日)に、地方港湾魚津港(みなとオアシス魚津)にて、「第10回Sea級グルメ全国大会 in 魚津」を開催します。今大会で第10回を数え、日本海側では初開催となります。全国各地から約20カ所のみなとオアシス※が集結し、各土地自慢の海産物を使ったご当地グルメを実演販売し、来場者投票によりグラ

ンプリを決定します。また、第13回魚津産業フェア「^{まるまる}魚津」も同時に開催し、魚津の商・工・農林水産業の魅力を丸ごと体験できる絶好の機会となっています。多くの方のお越しをお待ちしております。

※みなとオアシス

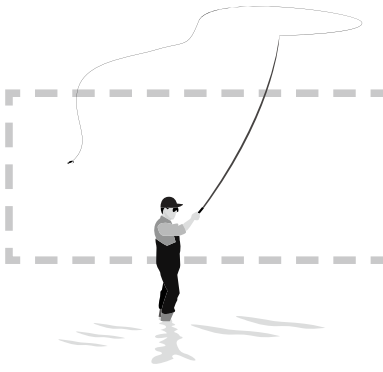
「みなと」を核としたまちづくりを促進するための施設で、国土交通省港湾局長が認定しています。全国で94カ所が認定されています。(平成29年4月21日現在)



魚津市の全景



^{まるまる}
魚津(魚津港会場)



北上する動植物たち

愛知県釣りインストラクター連絡機構
顧問 大田 豊明



♪夏も近づく八十八夜
野にも山にも若葉が茂る
あれに見えるは茶摘みぢやないか
あかねだすきに菅の笠♪
(「茶摘み」作詞・作曲不詳。1912(明治45)年発表「尋常小学校唱歌」)

本誌199号「投げ釣りのアイナメ考(1)」で当該魚の生態や分布、釣り方などを紹介した。アイナメは魚類分類上硬骨魚綱・カサゴ目・アイナメ科に属する海水魚で、冬から春にかけて産卵する。通常茶褐色の魚体は産卵期の

オスに限って婚姻色と呼ばれる「黄色」に変わるのですぐにわかる。

俳句などに用いられる季節を表す言葉に「季語」がある。アイナメは「春の季語」に属する。このアイナメの数が瀬戸内海で数十年前から激減している。原因は諸説あるが、「地球温暖化」「海水温の上昇」が関連していると思われる。

温暖化に関する記事を新聞紙上から紹介する。進化生物学者・長谷川眞

理子さんは「地球規模でも、温暖化は生き物に大きな影響を与つつある。国連が2001年～05年に行った『ミレニアム生態系評価』によれば、北半球の99種の鳥やチョウ、高山植物の生息地は10年で平均して6.1%北に移動した。122種の植物やチョウ、鳥、両生類が春に出てくる時期は、2.3日早まった。暑くなっても身体は急に変われず、逃げるしかない。地球のあちこちで、こうした生息域の変化が起き、生物が絶滅の危機にある」。(朝日新聞紙から転載)



北海道のウサギアイナメ 50 cm



北海道に生息するウサギアイナメ 47 cm



青森県下北のアイナメ



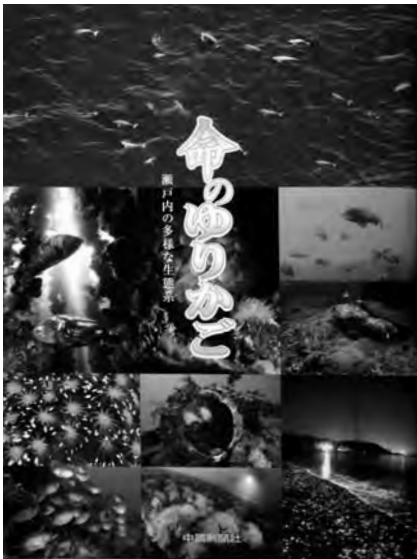
北海道のウサギアイナメ 47 cm



地球の温暖化を伝える朝日新聞紙



中国新聞受賞関連記事



中国新聞社「命のゆりかご」

次に中国新聞社(本社広島市)が平成24年に発行した写真史「命のゆりかご」。当史は同年栄えある「新聞協会賞」を受賞した。受賞理由に「温暖化や公害の影響を受けて変容した地元の里海を2年間追い続け、視覚化して見せた一連の写真企画は、瀬戸内海にとどまらない環境問題を提起した写真報道であり高く評価する」とある。

内容は「はびこる毒魚、ゴンズイ暖流に乗って」「収奪の記憶、まだらの海底」「放流の果て、チヌ貝養殖の敵に」「トラフグ乱獲の傷深く」「カブトガニ開発で細る命脈」「磯焼け招く大食漢アイゴ」「トビハゼ、減る干潟」「アサリ漁場荒らすエイ」「旺盛な食欲、放流魚

狙うカワウ」「海のゴミ、空き缶や漁具…広がる傷」「温暖化?広島湾でシイラ」など。

その中から「狙われる卵塊、アイナメ泣かせる水温上昇」に焦点をあてる。記者で水中カメラマンはこう語る「エメラルド色に輝くアイナメの卵塊に目を奪われた。卵塊を守るのは黄の婚姻色をまとったオスのアイナメ。周りに目をやると宝石のような卵を狙う不穏な影。釣り人からは『磯ベラ』と呼ばれ、餌盗りとして悪名高いホシササノハベラだ。

広島湾ではアイナメが減り、逆に磯ベラが増えている。『同じベラ科のギザミ(キュウセン)と違い、磯ベラは冬



「命のゆりかご」目次



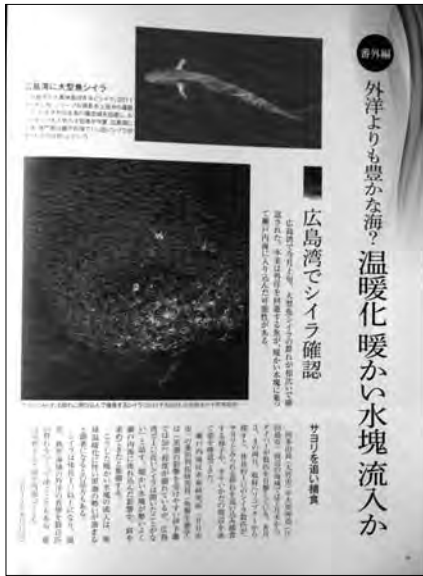
「ゴンズイ」暖流の乗って



「アイナメ泣かせる水温上昇」



「磯焼け」招く大食漢



「温暖化」広島湾にシイラ

眠しない。卵を食べてアイナメ減少の一因になったのでは』と語るのは釣り人で日本釣振興会中国地区支部理事の小池勝さん(67)。

かつて初心者でも簡単に釣れたアイナメの釣果が激減した時期は磯ベラの増加と重なる。今まで広島湾にいなかった磯ベラの出現は海の環境変化の黄信号であろう。〔「命のゆりかご」より抜粋〕

磯ベラは暖系の魚で、私が昭和50年代に通った五島列島でよく釣れた。地元では「クサブ」と呼び食用する。温暖な海を好み、海水温の上昇とともに北上し瀬戸内海に生息域を拡大したのだろう。それだけならまだしも、冬場の餌のないときの食料としてアイナメの卵を盗み食いし、瀬戸内海のアイナメ減少の大きな要因になったと推測される。



瀬戸内海山口県の大アイナメ



瀬戸内海野忽那島釣り風景

全国日本サーフ大物対象魚表彰基準寸法

●大物対象魚

魚種	ランク	A					B					C					D															
キス	26										28										30											35
カレイ	30										40											45										50
アイナメ	30										40											45										50
クロダイ	30										40											45										50
キュウセン	26										28											30										33
ネズッポ	27										30											35										40
ハゼ	25										27											35										40
ニベ	35										40											45										50
スズキ	50										60											65										70
マダイ	30										40											50										60
コチ	40										45											50										60
カワハギ	26										28											30										35
エソ	35										40											45										50
シマイサキ	30										35											40										45
ヒラメ	40										45											50										60

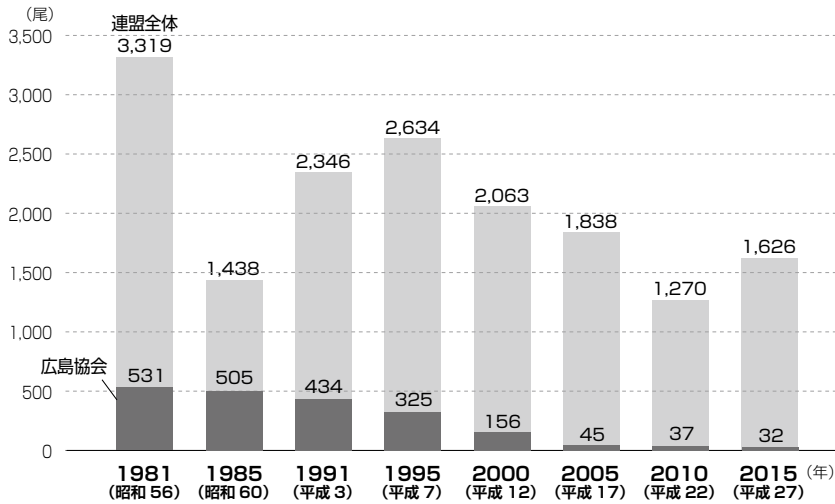
※ハゼにハゼクチを含む。ネズッポはガッチョ・テンコチのこと。(寸法は魚拓長寸・センチ)

●特別大物対象魚

魚種	長さ	魚種	長さ
カサゴ (カジカ)	30	ホッケ	37
ウシノシタ	35	イラ (テンス・コブダイ)	35
タカノハダイ	35	イトヨリダイ (アマダイ)	30
ウマヅラ	30	ハタ類	30
フエフキ類	35 (60)	イシダイ (イシガキダイ)	30 (50)

①特別大物対象魚は、大物15魚種と上記10魚種。ただしハゼクチはCランク以上とする。
②()内の数字は年間記録表彰の最低寸法。

全国日本サーフ年間大物アイナメ釣魚魚数の推移



西暦	邦歴	組織	30~39.9cm	40~44.9cm	45~49.9cm	50cm以上	釣魚合計	会員数	備考
1981	昭和56	広島協会	496	30	5	—	531	566人	50戸以上の基準設定は82年から
		連盟全体	3,073	203	43	—	3,319	7011人	
1985	同60	広島協会	441	51	11	2	505	426	
		連盟全体	1,306	106	22	4	1,438	6,162	
1991	平成3	広島協会	374	53	6	1	434	329	前年、北海道
		連盟全体	2,033	243	47	23	2,346	5,825	南西沖地震
1995	同7	広島協会	283	29	13	0	325	289	阪神・淡路
		連盟全体	2,231	299	79	25	2,634	5,913	大地震
2000	同12	広島協会	142	12	2	0	156	242	
		連盟全体	1,573	338	105	47	2,063	5,192	
2005	同17	広島協会	40	5	0	0	45	202	前年、新潟
		連盟全体	1,279	280	142	137	1,838	4,167	中越地震
2010	同22	広島協会	30	7	0	0	37	167	
		連盟全体	930	193	92	55	1,270	3,230	
2015	同27	広島協会	25	8	1	0	32	139	
		連盟全体	1,172	304	126	21	1,626	2,539	

私の所属する投げ釣り団体の全国組織・全日本サーフキャスティング連盟には貴重な資料が多い。今回のアイナメに絞り、会員が年間に釣った数の推移をたどると瀬戸内海からいかにアイナメが少なくなったかがわかる。

1981年から5年毎のデータを別表に掲げた。全日本サーフでは投げ釣りで釣れる国内の42種の魚の大きさを規定しランク分けしている。基準に達した魚を釣れば、魚拓または証明写真を添付して所属クラブ、地域の協会を通じて本部へ申請する。申請が受理されれば「大物バッジ(楯)」が付与されるシステムである。趣旨は小さな魚はその場で放流し、大きい魚だけを持ち帰ろうとするものである。

アイナメは30cm以上40cm未満をAランク、40cm以上45cm未満をBランク、45cm以上50cm未満をCランク、50cm以上をDランクとする。掲載の表は地元広島協会のアイナメ申請数と全日本サーフ全体のアイナメの申請数を集計したものである。

連盟全体(日本全域)でのアイナメの減少は語れないが、広島協会に限れば「アイナメの激減」がはっきりとわかる。特に2000年以降の減りようは異常というほかない。これらは海水温の上昇で、本来南の海に生息する魚が北上し、特に瀬戸内海では磯ペラが増え続け、かつ自然環境の変化と併せて魚種絶滅の危機要因になっている。アイナメは回遊魚ではなく磯周りに定着する魚、それゆえ、受けるダメージは計り知れない。

我々はこのような動植物の北上が静かにしかし確実に進行している事実注目し、監視を続けていかなければならない。それは人類に対する点滅信号にほかならないからだ。

あいなめ
鮎並のあすを見つめるまなこ澄み

| 編 | 集 | 後 | 記 |

今月号のTOPICSでは、(一社)防災ガールの方に執筆をして頂きました。防災ガールは、20～30代の女性を中心に構成された一般社団法人であり、記事の中にもありましたが、オレンジフラッグの普及など、主にソフト面からの津波防災対策に取り組まれている団体です。

執筆にあたり打合わせに伺いましたが、「防災」というキーワードに対する彼女達の意識の高さに大変驚かされました。津波対策と言うとどうしても防潮堤などハード面での対策に目が行きがちですが、このようなソフト面での対策と併せて計画的に推進していくことが重要です。

今回は、(一社)防災ガールによる取り組みを紹介させて頂きましたが、本紙を通じて、全国の海岸管理者等へ情報発信を行い、このようなソフト面からの津波防災対策への取り組みをされている団体と主にハード面での対策を進めている地方公共団体とが相互に連携し、津波防災対策について協力し合うきっかけとなれば幸いなことと思います。



原稿募集のお知らせ

本誌では、読者相互の交流・情報交換を図るため、読者の皆様からの投稿コーナーを設けています。採用させていただいた方には薄謝、掲載誌を差し上げます(応募者多数の場合は、すべて掲載できないこともあります)。皆様のご応募、お待ちしております。

■コラム「私と海岸」(毎号2名程度掲載予定)

ビーチ・海岸に関わる趣味の話、体験談、失敗談、おもしろ話、身近なこと、旅行話等、なんでも結構ですので、気軽にご投稿ください。

- ①文字数:1,000~1,500字程度(本誌1ページ分) ②テーマに沿ったお写真2~3枚程度

■「TOPICS」

「『波となぎさ』に掲載された活動の“その後”をお知らせしたい」、「今、こんな取り組みをしています」——そうした情報の原稿をお待ちしています。

- ①文字数:1,500字程度(本誌1ページ分) ②テーマに沿ったお写真、図表2~4枚程度

■「ビーチライフ」

皆様の「ビーチライフ」に関するさまざまな活動や体験についての原稿を募集します。

- ①文字数:4,000~6,000字程度(本誌2ページ分) ②テーマに沿ったお写真、図表3~7枚程度

■原稿送付先：郵送、FAX、メールにて承ります。

原稿形式は、データ、原稿用紙いずれも承ります。原稿送付の際には後日編集部からご連絡させていただきますので、ご連絡先等を必ず明記してください。

- ①郵送先:〒107-0052 東京都港区赤坂3-3-5 住友生命山王ビル8階 日本港湾協会内 港湾海岸防災協議会
「波となぎさ」編集担当宛
②FAX:03-3505-5400
③e-mail:naminagi@tbss.co.jp

※原稿に関するお問い合わせは上記連絡先③へメールにてお問い合わせください。



発行 平成29年6月30日

発行所 港湾海岸防災協議会
〒107-0052 東京都港区赤坂3-3-5 住友生命山王ビル8階
TEL. 03-5549-9575 (代表)

発行兼編集者 佐々木 利広

印刷所 株式会社 TBS サービス
〒107-8482 東京都港区赤坂5-3-6
TEL. 03-3505-7148

本誌の購読については、上記発行所にお問い合わせください。

その先の向こうへ

GOING FURTHER

1896年、広島県呉市にて創業した当社は、
進取気鋭の精神と先端の建設技術をもって社会に貢献し、
社会とともに成長してきました。
新たなフィールドへ常に挑戦し続ける心は、
いまでも当社のDNAに引き継がれています。
時代が変わっても変わらないチャレンジスピリットと、
時代の変化に応じた柔軟な自己革新力。
現状に甘んじることなく、一步一步着実に前に進む。
その先の向こうへ…五洋建設

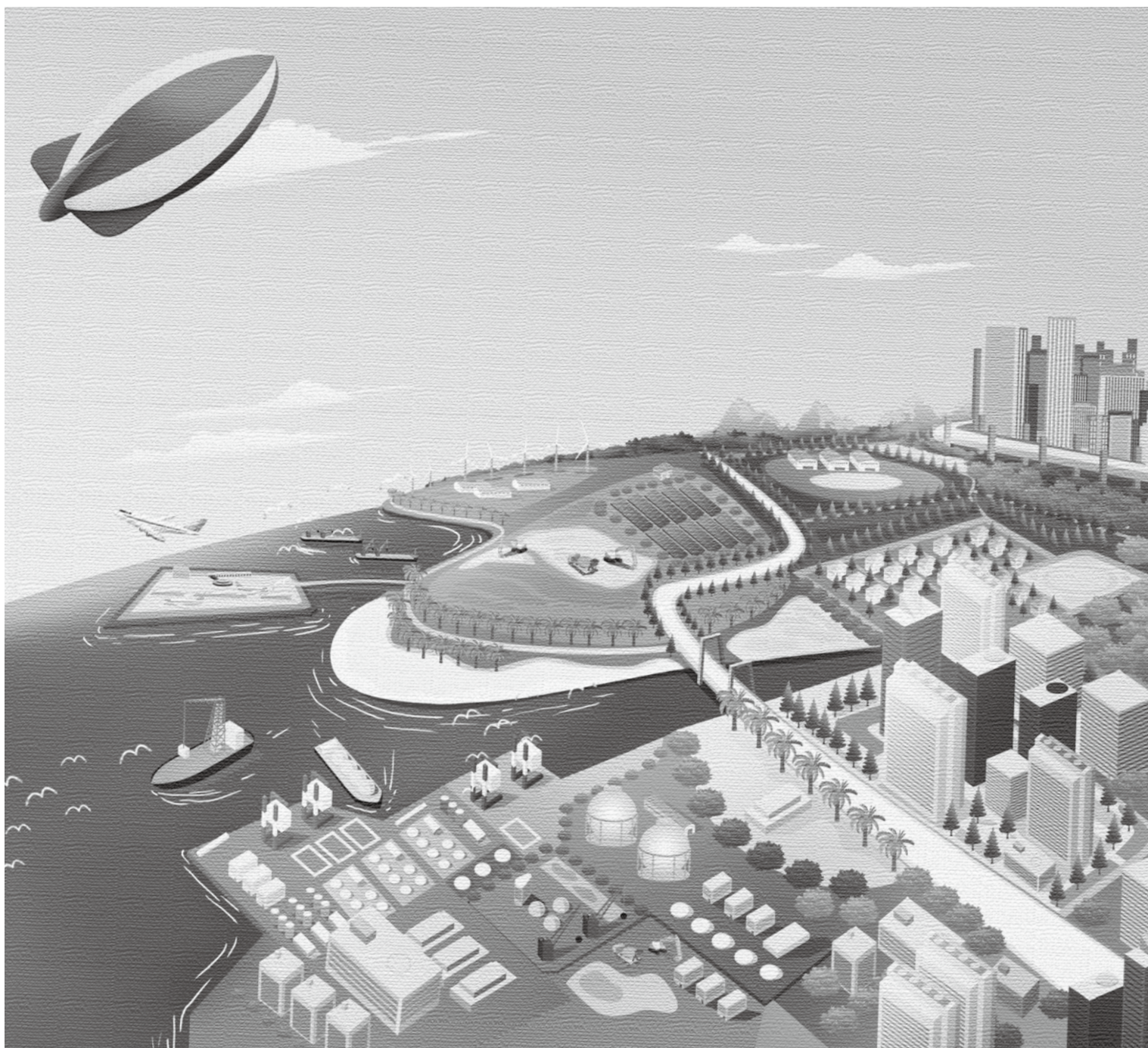
人と地球にあたたかな技術、 ハートテクノロジー。

海の息吹、大地の鼓動、そして都市の活気。

地球の自然と快適な生活の調和こそ、私たちの願いです。

人にあたたかな技術を追求し、夢を確かなカタチに育て、

感動の明日を築いていきます。



こころを刻む。



私たちの暮らしている社会は
少しずつ変化し、成長しています。
若築建設は、しっかりと今を見つめながら、
人のこころを刻む企業として、
一步一步着実に歩み続けます。



豊かな未来へ 技術のメッセージ

若築建設

〒153-0064 東京都目黒区下目黒 2-23-18
TEL. 03-3492-0271
FAX. 03-3490-1019

技術と信頼で未来を創る

技研興業は長年にわたって培ってきた技術と信頼によって
災害から国土を、そして人々の生活を護り
安全で住みやすい未来を創ります



ロウタスユニ



六脚ブロック



ツイスタ

国土保全
環境創造



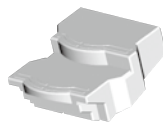
ビーハイブ



パラクロス



トライアン



アゴスW



技研興業株式会社
<http://www.gikenko.co.jp/>

本 社

東京都杉並区阿佐谷南三丁目7番2号
TEL 03-3398-8521 FAX 03-3398-8553



人と地球が 共に生きる未来

新しい発想と創造力で
豊かで安全・安心な
国土づくりに貢献します

株式会社 不動テトラ 東京都中央区日本橋小網町7番2号(ぺんてるビル) TEL:03-5644-8500 <http://www.fudotetra.co.jp>

SHIBATA

海洋開発・港湾整備・防災設備・環境保護
様々なニーズに対応できる防舷材総合メーカー



クルーズ船対応の防舷材

■営業品目■ 各種防舷材、ケーソン目地材、透水性土木シート、高潮対策用防水扉等



～「ゴム+α」の複合素材で、環境・防災・安全に貢献する～

シバタ工業株式会社

ISO9001&ISO14001認証取得

<http://www.sbt.co.jp/>

本社工場 〒674-0082 兵庫県明石市魚住町中尾1058

東京支社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21 (JPRクレスト竹橋ビル8F)

神戸支社 〒650-0023 神戸市中央区栄町通4-1-10 (新和ビル5F)

支店・営業所 / 札幌・仙台・名古屋・福岡・長崎・沖縄

TEL.078-946-1515 FAX.078-946-0528

TEL.03-3292-3861 FAX.03-3292-3869

TEL.078-362-6030 FAX.078-362-6094

